

289-7イ



1200501363329

法財
人團

理化學研究所案內

昭和十一年

289
7
1
5cm
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30

始



289-17

一、目的及事業

目次

一頁



三、組

會員役員及職員
金

織

所長 聖金立裁

三菱造船株式會社研究所寄附の件



研 究 室
事 務 室

四、寄附行為、規則及規程

寄附行為

規則
發明規程

特許實施許諾内規

研究生規程

技術練習生規程

五、位置、建物及設備

位置
建物及設備

六、昭和十一年度研究項目

七、昭和十一年度豫算

八、前年度決算

九、特許權

附錄

役員名簿、構内建物配置圖

財團理化學研究所案内

一 目的及事業

〔目的〕 理化學研究所は産業の發達を圖る爲、純正科學たる物理學及化學の研究を爲し、又同時に其應用方面の研究をも爲すのである。工業と云はず農業と云はず、理化學に基礎を置かない總ての産業は、到底堅實なる發展を遂ぐることが出来ない、殊に人口の稠密な、工業原料其他物資の勢い我國に於ては、學問の力によつて産業の發達を圖り、國運の發展を期する外はない、當所の目的とするところは、此重大なる使命を果さんとするにある。

〔研究の發表〕 當所の研究成果は、歐文學術報告 Scientific Papers of the Institute of Physical and Chemical Research 及び Supplement 並に理化學研究所彙報及び同 Abstracts を發行して内外に發表する。歐文報告は、第一卷より第二十八卷まで六百二十八號、彙報は、第一輯より第十五輯まで百四十三號を刊行して廣く一般に販賣してゐる。又場合によりては内外専門雑誌等にも掲載する。その外研究成果報告講演會によつても發表する、此講演會は既に二十九回を開催した。

〔工業的試験〕 理化學の應用方面的研究が研究室内で完成した場合は試験的作業を行ひ、工業として成立の

見込みあるや否やを確めるのである。此試験で相當の成績を挙げた後は其性質により或は所内に製造設備を爲して作業し、或は他に其製造を託し、又は當所との報償契約の下に新會社が設立されるのである。目下工業として成立し、又は成立せんとして居るものは、可なり多い。この應用研究の成功する第一の素因は、背後に堅實なる純正科學の研究がある爲めであるから、幸に此等工業で收益を得寄附を受けた場合は、其一部は純學術方面の研究費に振り當て、一部は發明者への報酬とするのである。

〔機械製作〕 理化學の研究に用ゆる精密機械類は一般の機械類と其趣を異にし、一般工場では製作することの出來ないものが多い。當所は比較的大規模の機械製作工場を設け、所内にて用ゆる機械の製作及修繕を爲す外、他の注文に應じて研究用の特殊の機械器具類を製作してゐる。目下製作して居るのは、別冊に記載せる如く未だ種類は少いが、從來海外より輸入して居た精密機械、測定機械を製作し得るのみならず、外國品よりも優秀の製作品がある。

一一 沿革

〔設立の發端〕 大正二年六月、工學博士藥學博士高峰謙吉氏が米國から歸朝の際、帝國の現狀に鑑みて、國民科學研究所設立の必要ある事を高唱した。此計畫は約二千萬圓の資金を以て研究所を設立せんとするものであつたが、三十名の實業家及學者より成る調査委員會は、當時の我國財界の事情に徴し、先づ五百萬圓位の資金を

以て、差當り最も急務とする化學研究所を設立せん事を企劃し、翌大正三年三月、調査委員七名連署して貴衆兩院へ化學研究所設立に就いての請願書を提出したが、不幸議會の解散に會つて其目的を達する事が出來なかつた。

大正三年八月、歐州大戰勃發し其餘波を受けて外國との交通は一部杜絶し、醫藥品及工業原料の輸入は梗塞または制限せられ、我國の衛生上及產業上多大の障害を來したので、農商務省は化學工業の振興策を講する爲調査會を設置し、同年十一月第一回調査會を開きたるに、我國に於ける化學工業の改良發達を圖るには、化學研究所設立を以て第一の急務とし農商務大臣に建議書を提出した。

大正四年三月、第二回の化學工業調査會に於いて、偶委員中に化學のみの研究では其範圍が狹過ぎるゆへ、物理學及化學の兩方面に亘る理化學研究所を設立しては如何との議起り、此議に對し各委員多數賛同し、長井長義、渡邊渡、高松豊吉、櫻井綱一、古在由直の五博士を特別委員に擧げて、實行方法を一任する事になつた。仍つて右特別委員等は、直ちに商工局長及大學教授等と相會し、更に數回の協議を重ね設立計畫の大要、研究事項等を協定し、曩に有志の計畫せる化學研究所設立案との連絡統一を得、濫澤、菊地、山川の三男爵及中野武營氏並に前記特別委員主唱者となり、大正四年四月、設立に關する草案を主なる實業家及當路者に送附して其賛同を求め、茲に理化學研究所設立の曙光を見るに至つたのである。其當時起草された設立趣旨は次の通りである。

理化學研究所設立ノ趣旨

理化學研究所案内

四

明治維新以降帝國ノ文明ハ長足ノ進歩ヲ爲シタリト雖其ノ由テ來ル所ヲ察スルニ主トシテ歐米先進諸國ノ模倣ニ勉メタルノ結果ニ外ナラズ。而シテ理化學及之ヲ應用シタル各般ノ技術ニ於テ殊ニ其ノ然ルヲ見ル。想フニ理化學ニ對スル我邦人固有ノ發明トシテハ世界ニ誇稱スペキモノ甚ダ鮮ク、學者ハ今尙歐米諸國ニ於ケル研究ノ成果ヲ追從スルニ是レ急ニシテ、自ラ進ムデ是等學理ノ獨創的研究ヲ爲サムトスルモ、其ノ設備ト經費トニ缺ク所アリテ未ダ十分ニ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ザルノ實狀ニ在ルハ、遺憾ノ極ト言ハザルベカラズ。吾人ハ固ヨリ永ク此ノ如キ狀態ニ安ムズベキニアラズ。速ニ相當ノ研究所ヲ設立シ此種ノ研究ヲ盛ナラシメ、以テ百般工業ノ根本ヲ啓沃シテ其ノ健全ナル發達ヲ促進スルト共ニ、我國ノ自ラ研究シ自ラ發明シタル所ヲ以テ、久シク外國ニ負ヒ來リシ智能上ノ債務ヲ償却シ、進ムデ世界ノ文運ニ貢獻スルコトヲ期セザルベカラズ。試ニ歐米諸國ニ就テ此種ノ實例ヲ求メムカ、英國ニハ國立理學研究所アリ、佛國ニハ工藝試驗所アリ、北米合衆國ニハ國立標準局アリ、獨逸國ニハ國立理學研究所及ウイルヘム帝化學研究所アリ、普國ニハ國立材料試驗所アリ、概ネ官公立ノ性質ヲ有ス。其ノ他富豪又ハ篤志者ノ建設セル私設ノ營造物ニ至テハ舉ゲテ數フベカラズ。加フルニ各種ノ大工場亦各其ノ試驗所又ハ研究所ヲ附設スルアリ。理化學ノ學理ト之ガ應用ニ關シテハ官民戮協シテ之ガ研究ヲ相競ハザルナシ。歐米列國ニ於ケル文運進暢ノ勢、汪然トシテ當ルベカラザルモノアルハ、其ノ由來スル所決シテ偶然ニアラズト謂フベシ。

今ヤ帝國ハ三大戰役ヲ經テ國威益々揚リ、國際上ノ位置愈々隆キヲ加ヘタリト雖、此勢力ヲ維持シテ倍々

之ヲ皇張セムトスルニハ國費ヲ要スルコト彌々多カラザルヲ得ズ。然ルニ我國ハ面積甚大ナラズ、農業鑄業其ノ他原始產業上ノ富源亦豊カナラザルヲ以テ、產業上ノ國是トシテハ一ニ智能上ノ生產ヲ潤澤ナラシメ、以テ是等ノ観如スル所ヲ補フノ外アルベカラズ。智能上ノ生產ヤ、其ノ源泉トスル所ハ一ニ理化學ノ研究ニ存ス。研究愈々深クシテ之ガ應用益々廣キヲ得バ、源泉分流共ニ滾々トシテ盡クルコトナク、此種生產ノ増加亦隨テ旺盛ナルヲ致サム故ニ、理化學ノ研究ト之ガ應用トヲ遺憾ナカラシヌムガ爲、茲ニ理化學研究所ヲ設置スルハ寔ニ刻下時勢ノ切要ニ應ズルモノナリ。

殊ニ今次歐洲ノ戰亂アリテ以來列國トノ通商交通一時ニ杜絶セラレ、若ハ甚シク制限セラレ交戰國ハ數多ノ重要品ノ輸出ヲ禁止シタル爲、我邦藥業者及工業者ハ何レモ其ノ必要トスル藥品又ハ原料ノ中之ヲ得ル能ハザルモノヲ生ジ、當時政府ハ是等ニ對シ種々劃策アル所アリシガ時局ハ實ニ幾多重要ナル教訓ヲ我邦人ニ與ヘタリ。隨テ今後醫術上ニ於テハ藥劑ノ獨立ヲ完ウスルノ必要アルコト、又工業上ニ於テハ其ノ基礎タルベキ一定ノ物質ハ之ガ自給ノ途ヲ確立セザルベカラザルコト、殊ニ國防上ニ於テ軍事材料ノ獨立ヲ確保スペキトヲ一般ニ覺知セシメタリ。就中最モ重要な教訓トスベキハ智能上ニ於テ、我邦復タ從來ノ如ク常ニ歐米列國ニ倚賴スベカラザルコトヲ深ク感悟セシメタルコト即チ是ナリ。

要之理化學ノ獨創的研究ヲ旺盛ナラシメ、以テ工業其他一般產業ノ發達ヲ期スルト共ニ我邦人ノ發明能力ヲ發揮シテ、智能上ノ生產力ヲ充實スルハ、我邦目下ノ急務ナルノミナラズ、永遠ニ富強ノ基礎ヲ鞏固ナラ

シムル所以ニシテ、理化學研究所ノ設置ハ此目的ヲ達セムトスルニ外ナラズ。吾人這般之ガ設立ヲ企圖スルヤ、政府ハ理化學研究所國庫補助法ヲ發布シテ十年間ニ二百萬圓ノ補助金ヲ交付セラレムトシ、畏クモ、皇室ニ於テモ亦御下賜金ノ御内儀アルヲ拜聞セリ。希クバ江湖ノ諸士吾等ノ意ノ在ル所ヲ諒トセラレ、奮テ此舉ニ贊同シ、十分ノ助力ヲ與ヘラレムコトヲ。

大正四年四月

斯くて理化學研究所の設立を促進せんが爲めに、大正四年六月時の總理大臣大隈伯爵は内務、大藏、文部及農商務各省の關係當局、學者及實業家を私邸に招致して設立協議會を開き、超えて大正五年一月、濱澤男爵外十一名連署して内閣總理大臣、大藏大臣及農商務大臣へ、設立計畫に對し政府の補助を仰がん事を建議した。

理化學研究所設立ニ關スル建議

世界ノ文運ニ貢獻シ以テ益々國威ヲ宣揚スルト共ニ、百般工業ノ根本ヲ啓沃シ、以テ國富ノ増進ヲ期センニハ、理化學ニ關スル獨創的研究ヲ旺盛ナラシメザルベカラズ。而カモ今次ノ歐洲戰亂ハ今後益々軍事材料ノ獨立、工業物資ノ自給ヲ企畫スルノ緊要ナルコトヲ教ヘ、吾人ヲシテ理化學研究ノ必要ヲ愈々痛切ニ覺知セシメタリ。然ルニ我國ニ在リテハ、從來此種ノ研究機關ニ於テ闕クル所アルヲ以テ、民間有志ニ於テ理化學研究所設立ノ計畫アリ。然ルニ此事業タルヤ、少ナカラザル資金ヲ要シ、民間有志ノ醵金ノミヲ以テハ到

底所期ノ目的ヲ達スル事能ハザルガ故ニ、政府ハ國家事業トシテ之ヲ助成シ、理化學ノ研究ヲシテ遺憾ナカラシメ、以テ國運ノ發展ヲ期スル爲メ、速カニ適當ノ措置ヲ採ラム事ヲ切望ス。

右別紙豫算概算書相添ヘ、謹テ及建議候也（豫算概算書省略）

大正五年一月二十一日

〔國庫補助に關する法律〕 政府に於ても豫てより設備の完全なる研究機關設置の必要を認めて居たので、前記大正五年一月の建議に基き、第三十七帝國議會に理化學を研究する公益法人に對し國庫補助を爲す法律案と、大正五年度に於て補助すべき金二十五萬圓の追加豫算とを提出せるに、兩院の協賛を得、大正五年三月六日同法律案が公布せられた。

法律第十六號

第一條 產業ノ發達ニ資スル爲理化學ヲ研究シ其成績ノ應用ヲ圖ルコトヲ目的トスル公益法人ノ一ニ對シ政府ハ本法施行ノ日ヨリ十年ヲ限リ毎年二十五萬圓以内ヲ補助スルコトヲ得

前項補助金ノ總額ハ二百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 前條法人ノ業務ハ農商務大臣ノ監督ニ屬ス

農商務大臣ハ前條ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケタル法人ノ業務ヲ指揮監督シ之カ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

沿革

七

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ定ム

此補助金に就ては大正五年度より同十一年度迄に百六十五萬圓の交付を受けたが、其後當所の研究を更に一層盛大にする爲め再び第四十六帝國議會で補助金に關する改正法律案が通過し、大正十二年度より向十ヶ年間毎年二十五萬圓宛經營費の補助を受くる事になつた。此法律案は大正十二年四月二日、左記の通り公布せられた。

法律第四十號

大正五年法律第十六號中左ノ通改正ス

第一條中「十年」ヲ「十七年」ニ「二百萬圓」ヲ「四百十五萬圓」ニ改ム

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔設立〕 基礎準備略々成り、第一回、第二回と設立發起協議會を開き、澁澤男爵を創立委員長に櫻井、高松、團の三博士、和田豊治、大橋新太郎、中野武營、莊清次郎の四氏を常務委員に推舉し建築及設備に就ては物理學部を長岡半太郎、大河内正敏兩博士に、又化學部を池田菊苗、井上仁吉兩博士に囑託した。そこで委員長及常務委員は設立の趣意書、計畫書及研究所の行はんとする事業と產業との關係を明かにした「理化學研究所の事業と產業界」を刊行して各方面に配布し、傍ら實業家を歴訪して寄附金の勧誘に努められたところ、富豪及篤志家より多數の寄附金が集つて、大正六年三月十九日迄に其申込總額二百十八萬七千圓に達した。澁澤男爵は設立者の總代となつて東京府知事を経て農商務大臣に財團法人理化學研究所設立の許可を申請した。農商務大臣よりは

直ちに指令第三六九二號を以て許可された。實に大正六年三月二十日である。

〔御下賜金〕 當所設立の事天聽に達し、大正六年四月二十六日左記寫の通り金百萬圓御下賜の恩命に浴した。

當所は大御心に副ひ奉らんが爲め、恩賜金は基金として永遠に保存する事に決議せられた。

財團法人理化學研究所

一金百萬圓 今般其ノ所設立ノ趣被聞食學術及產業御獎勵ノ黒召ヲ以テ御補助トシテ大正六年以降十ヶ年間
金十萬圓宛即前記ノ通下賜候條

聖旨ヲ奉體シ貽勉努力以テ其ノ目的ヲ遂成セムコトヲ期スヘシ

宮 内 省

大正六年四月二十六日

〔總裁〕 當所の總裁には、皇族を奉戴することに寄附行為で定められてゐる。仍て設立者一同の希望により伏見宮貞愛親王殿下を總裁として奉戴の議を其筋に願ひ出たるに、大正六年三月二十八日御承諾被爲在たる旨の通牒があつた。總裁奉戴式は大正八年十一月二十六日、帝國ホテルに殿下の台臨を仰ぎ、關係者一同參列して舉行した。其際左の令旨を賜つた。

令旨 理化學ハ文化ノ淵源富強ノ根本ニシテ之カ研究ヲ務ムルハ即チ國家發展ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル所以ナリ貞愛此ノ趣旨ヲ以テ設立セラレタル本所ノ總裁ニ推サレタルハ深ク欣ヒトスル所ニシテ職員及有志ノ協贊ニ依リ本所ノ事業ヲ遂行シ邦家ノ爲貢獻スル所アラムコトヲ庶幾フ職員及協同ノ諸員斯ノ意ヲ體シ益々

沿革

九

努ムル所アレ

大正八年十一月二十六日

大勳位功二級 貞 愛 親 王

總裁宮殿下には其後大正十一年十月二日當所に成らせられ、大河内所長より設立以來の經過、建築、設備並に研究の概況等を聞召され、次で各館を隈なく御検閲あらせられ、且つ研究室主任より研究の現況並に其成績等に就て、御熱心に説明を聞召された後、研究員一同を御前に召され左の令旨を賜つた。

令旨 惟フニ理化ノ學ハ國防及產業ノ基礎ニシテ世界各國銳意之ガ研究ニ從事セサルハナシ今ヤ本所ノ建築設備モ略ホ竣リ創業以來日猶淺キニ係ラス其成績ノ見ルヘキモノアルハ予ノ深ク欣悅トスル所ナリ諸子益々奮勵努力シテ國家ノ富強ニ資セヨ

大正十一年十月二日

財團法人理化學研究所總裁大勳位功二級 貞 愛 親 王

其後伏見宮貞愛親王殿下には大正十二年二月四日薨去あらせられ、新に

伏見宮博恭王殿下を總裁として奉戴の儀が允許あらせられたので、大正十二年十一月二十日、殿下の台臨を當所に仰ぎ奉戴式を舉行し、博恭王殿下より左の令旨を賜つた。

令旨 惟フニ理化學ノ研究ハ文化ノ開發ヲ促シ富強ヲ増進スル所以ニシテ國運發展ノ基礎實ニ此ニ存ス今

予先考ノ後ヲ受ケテ新ニ本所ノ總裁ニ推サレタルハ深ク欣幸トスル所ナリ冀クハ職員及協贊諸員ノ補翼ニ依リ益々本所ノ事業ヲ擴充シテ紹述ノ實績ヲ擧ケンコトヲ諸子ヨクスノ意ヲ體シテ國家ニ貢獻スル所アレ

大正十二年十一月二十日

財團法人理化學研究所總裁大勳位功四級 博 恭 王

〔所長〕 大正六年設立當時の所長は、理學博士男爵菊地大麓氏であつたが、就任後間もなく急病にて卒去され、同年十月工學博士男爵古市公威氏が其後を繼がれた。男爵は設立勿々非常に多忙の際、熱心其職に盡されたが、劇務の爲健康を害せられ大正十年九月辭任された爲、爾來工學博士男爵大河内正敏氏が就任し今日に及んで居る。

〔三菱造船株式會社研究所寄附の件〕 昭和八年三月三十一日三菱造船株式會社より東京市本郷區駒込上富士前町百五十七番地所在同社研究所々屬建物機械設備其の他一切を、男爵岩崎久彌氏より同敷地を當所に寄附の申込があつた。四月一日附を以て受諾之が引繼を了し、第二十三號館と稱することにした。

三 組 織

〔資金〕 當所は下賜金、政府補助金及法人並に個人の寄附金より成る財團法人で、商工省の管轄に屬して居る、昭和十一年三月末日現在資金額は金六百參拾六萬八千四百七圓七拾九錢で、今まで敷地、建物及設備に投

せられた額は金六百六拾九萬貳千百參拾七圓九拾貳錢である。

〔會員役員及職員〕 昭和十一年五月末日現在、法人組織による會員は百八十八名で、役員は總裁、顧問各一名、理事十五名、監事四名、評議員六十名である。(附錄役員名簿参照)

職員は九百參拾七名で、夫れを大別すると

研究に直接從事する者

計四百七十七名

| | | | | |
|------------|-----------|------------------|-------|-------|
| 内 譯 | 主 任 研 究 員 | 二十七名 | 研 究 員 | 二十九名 |
| 助 手 | 八 十 名 | | 囑 託 | 百 四 名 |
| 研 究 生 | 百二十三名 | | 雇 以 下 | 百十四名 |
| 研究の介助を爲す者 | | 技師以下百三十三名 | | |
| 工作實習中の者 | | 見習四十二名 | | |
| 試驗作業に從事する者 | | 研究員一名、技師以下二百四十二名 | | |
| 事務に從事する者 | | 主事一名及書記以下十一名 | | |
| 雜役に從事する者 | | 雇以下三十名 | | |

〔研究室〕 研究室は夫々主任研究員の姓名を冠し、現在飯盛、磯部、石川、石田、井口、飯高、西、西川、仁科、本多、大河内、和田、片山、高嶺、長岡、野口、久保田、眞島(利)、眞島(正)、深川、喜多、木村、木下、

清水、瀬藤、鈴木(庸)、鈴木(梅)、の二十七室ある。尤も此等研究室全部が當所内にあるのではなく、便宜上主任研究員の所在地に置いてある。即ち石川、本多の兩研究室は東北帝國大學總長の許可の下に同大學内に、又片山研究室は同様東京帝國大學内に、喜多、木村兩研究室は京都帝國大學内に又眞島(利)研究室の一部は大阪帝國大學内に在る。

而して各研究室は夫々室專有の豫算を持ち、經費の使途は主任研究員に一任されて居て、室の設備に多くを支出するも、又人件費に多くを使用するも夫れは全く自由である。猶研究室には左の七係が配屬して居る。

1 倉 庫 係

一、研究用貯藏物品の配給に關する事項

二、研究用物品臺帳及出納帳簿の記入、整理に關する事項

三、研究室の取締並に營繕に關する事項

此倉庫係は研究室で日常に使用する消耗品、各種薬品、其他最も多く使ふ雜貨をも貯藏し、各研究室及所内各部へ一定の價格で供給し、割當てられた豫算から差引いてゐる。

2 圖 書 係

一、圖書の保管、整理に關する事項

二、圖書の購入に關する事項

組 織

理化研究所案内

一四

三、圖書閱覽に關する事項

四、製本に關する事項

3 研究成績發表係（通稱、編纂係）

一、研究成績報告文書刊行並に同發賣頒布及講演に關する事項
當所研究員の中から選舉せられた研究成績發表委員は歐文報告及邦文彙報其他一切の原稿の整理、出版手續及内外國各方面への出版物の寄贈或は交換に就いて協議を開く等、當所から刊行する出版物一切の仕事をする事になつて居る。

4 幻燈係

一、幻燈機及活動寫眞映寫機の保管並に幻燈圖板の調製に關する事項

5 工作係

一、機械器具の製作、並に修繕に關する事項

二、機械器具及材料の購入、並に保管に關する事項

工作係は設計製圖、機械、第一仕上、第二仕上、調整、測機、鑄工、鍛工、レンズ、硝子、塗工、木工の諸部から成つて居て、技師以下百三十四名居る。研究室から注文の諸機械器具の製作、並に修理等は勿論研究室外よりの注文に對しても出來るだけ應じて居る。

6 電氣係

一、動力、電燈、電話其他電氣機に關する事項

7 機械係

一、汽機、汽罐、液體空氣、壓搾瓦斯其他に關する事項

〔事務室〕 一般事務は左の三係で分掌して居る。

1 庶務係

一、所印及職印の保管

二、役員、會員及職員の進退に關する事項

三、役員會議に關する事項

四、機密に關する事項

五、建設工事に關する事項

六、土地建物及樹木の管理に關する事項

七、事務室用物品の購入保管に關する事項

八、構内取締に關する事項

九、電話交換に關する事項

○、製作品の販賣に關する事項

二、前項の外他係に屬せざる事項

2 會 計 係

一、豫算決算に關する事項

二、御下賜金、政府補助金及一般寄附金に關する事項

三、現金、有價證券の出納保管に關する事項

四、現金 有價證券出納諸帳簿及證據書類の整理に關する事項

五、取引銀行に關する事項

3 炊 事 係

一、所員の階に關する事項

二、庖厨器具類の購入並に保管に關する事項

三、食料品の購買、出納並に帳簿整理に關する事項

四 寄附行爲、規則及規程

〔寄附行爲〕

第一章 目的及事業

第一條 本所ハ産業ノ發達ニ資スル爲理化學ヲ研究シ其ノ成績ノ應用ヲ圖ルコトヲ以テ目的トス

第二條 本所ハ前條ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設ヲ爲スノ外左ノ事業ヲ行フ

一、一定ノ事項ヲ指定シテ研究ヲ依頼シ又ハ本所ノ設備ノ利用ヲ希望スル者アルトキハ其ノ需ニ應スルコト

二、研究及發明ヲ獎勵スヘキ施設ヲ爲スコト

三、研究及調査ノ成績ヲ公ニスル爲印刷物ヲ刊行シ又ハ講話ヲ爲スコト

第二章 名稱及事務所

第三條 本所ハ財團法人理化學研究所ト稱ス

第四條 本所ハ事務所ヲ東京市本郷區駒込上富士前町三十一番地ニ置ク

第三章 會員及資產

第五條 本所ノ事業ヲ翼賛シテ金錢又ハ物件ヲ寄附シタル者ヲ會員ト稱ス

第六條 本所設立ノ日ニ於ケル資產ハ左ノ如シ

一、現金拾萬五千圓也

二、設立初年目ニ於ケル寄附年賦金五拾萬五千七百圓也

三、設立二年目ニ於ケル寄附年賦金四拾五萬五千七百圓也

寄附行爲、規則及規程

四、設立三年目ニ於ケル寄附年賦金四拾五萬四千六百圓也

五、設立四年目ニ於ケル寄附年賦金參拾參萬參千圓也

六、設立五年目ニ於ケル寄附年賦金參拾參萬參千圓也

第七條 本所ノ資産ハ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申シ其ノ一部ヲ基金ニ充ツ基コト得

第八條 本所ノ資産ハ國債證券又ハ確實ナル有價證券ヲ買入レ若ハ郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ預入レ利殖ヲ圖ルモノトス

第九條 本所ノ經費ハ基金ノ利息及其ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十條 本所ノ豫算ハ毎年度評議員會ノ議決ヲ經テ決算ハ評議員會ノ認定ヲ經テ總裁ニ上申スルモノトス

第十一條 本所ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十日ニ終ル

第四章 總裁、副總裁及顧問

第十二條 本所ニ總裁一人及副總裁二人ヲ置ク

總裁ニハ皇族ヲ奉戴ス

副總裁ハ總裁之ヲ委嘱ス

副總裁ハ總裁ヲ補翼ス

第十三條 總裁ノ諮詢ニ應スル爲顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ總裁之ヲ委嘱ス

第五章 役員

第十四條 本所ニ理事二十人以内監事十人以内ヲ置ク

理事及監事ハ評議員會ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委嘱ス

前項ニ依リ選任セラレタル理事ノ就任スルニ至ル迄ノ間ハ設立者ヲ以テ理事トス

第十五條 本所ニ所長一人ヲ置ク

所長ハ理事中ヨリ總裁之ヲ委嘱ス

所長ハ本所ヲ代表ス

所長ハ理事過半數ノ同意ニ依リ委任ヲ受ケタル事務ニ付之ヲ專行ス
所長故障アルトキハ總裁ノ指名シタル理事代テ其ノ職務ヲ行フ

第十六條 理事及監事ノ任期ハ三年トス但シ再任スルコトヲ妨ケス

補缺役員ノ任期ハ前任ノ者ノ残任期間トス

第十七條 本所ニ評議員百五十人以内ヲ置ク

寄附行為、規則及規程

設立當初ノ評議員ハ設立者ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委嘱ス

評議員ノ補充ヲ要スルトキハ評議員會ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委嘱ス

第六章 補 則

第十八條 本寄附行爲ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條 將來本寄附行爲ノ條項ヲ變更セムトスルトキハ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申シ主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

前項評議員會ノ議決ハ事務所ヲ變更スル場合ヲ除クノ外評議員總數三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

〔財團法人理化學研究所規則〕

第一章 評議員會

第一條 定時評議員會ハ毎年一月及六月所長之ヲ招集ス但シ所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ招集スルコトヲ得

評議員五分ノ一以上又ハ監事ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ所長ハ臨時評議員會ヲ開

クコトヲ要ス

第二條 評議員會ノ議長ハ評議員會ニ於テ毎回評議員中ヨリ之ヲ互選スルモノトス

第三條 評議員會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ其ノ議決ヲ以テ指名選舉法ニ依ルコトヲ得

- 第四條 評議員會ハ評議員總數ノ五分ノ一以上出席スルニ非レハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス
但シ同一事項ニ付再度招集スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 評議員會ニ出席セサル評議員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ他ノ評議員ヲ以テ代理人ト爲スコトヲ得
- 第五條 評議員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
- 第六條 評議員會ニ於ケル議事ノ經過ハ議事要錄ニ登錄シ議長及出席評議員二名以上之ニ署名スルモノトス

第二章 理事會

- 第七條 本所ノ事務ハ理事過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ行フ但シ理事過半數ノ同意ヲ以テ其ノ事務ノ一部ヲ所長ニ委任スルコトヲ得
- 第八條 所長ハ本所ノ事務ニ付協議ヲ爲ス必要ノ都度理事會ヲ招集スルコトヲ得
- 第九條 理事會ニ於テ出席者過半數ニ達セサルトキハ所長ハ書面ヲ以テ缺席者ノ意見ヲ徵スルコトヲ得
- 第十條 理事會ノ議長ハ所長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十一條 第六條ノ規定ハ理事會ニ之ヲ準用ス

第三章 職員

- 第十二條 本所ニ所長ノ外左ノ職員ヲ置ク
- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 研究員 | 若干人 | 助 手 | 若干人 |
|-----|-----|-----|-----|
- 寄附行爲、規則及規程

| | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 技 師 | 若 干 人 | 技 手 | 若 干 人 |
| 主 事 | 一 人 | 書 記 | 若 干 人 |
| 雇 人 | 若 干 人 | | |

第十三條 所長ハ所務ヲ統理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第十四條 研究員ハ所長ノ推薦ニ依リ理事會ノ議ヲ經テ總裁之ヲ委嘱ス
技師及主事ハ所長ノ推薦ニ依リ理事會ノ議ヲ經テ之ヲ任免ス

助手、技手、書記及雇ハ所長之ヲ任免ス

第十五條 所長ハ業務ノ都合ニ依リ嘱託員又ハ研究生ヲ置クコトヲ得

第四章 雜 則

第十六條 副總裁、顧問及監事ハ理事會及評議員會ニ列席シ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

第十七條 評議員會ニ報告スル決算書ニハ監事ノ意見ヲ添フヘシ

第十八條 所員ノ給與ニ關スル規定其ノ他本所ノ業務執行ニ必要ナル規定ハ理事會ノ議ヲ經テ之ヲ定メ評議員會ニ報告ス

第十九條 將來本規則ノ候項ヲ變更セムトストキハ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申スルコトヲ要ス

〔財團法人理化學研究所職員ノ爲シタル發明實用新案及意匠ニ關スル規程〕

第一條 本規程ニ於テ職員ト稱スルハ財團法人理化學研究所規則第十二條及第十五條ニ規定スル職員ヲ謂フ
第二條 職員カ本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ特許ヲ受クルノ權利ハ本所之ヲ承繼ス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ

第三條 前條ノ發明ニ關スル特許權ハ發明者ノ希望ニ因リ本所ノ承諾アリタルトキハ本所ト發明者トノ共有ト爲スコトヲ得

第四條 前條ノ規定ニ依リ特許權カ本所ト發明者トノ共有ニ係ル場合ニ於テハ特許料ハ本所ノ負擔トス但シ發明者カ本所ノ同意ヲ得テ持分ヲ讓渡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 本所カ第二條ノ規定ニ依リ特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル場合ニ於テ發明者ニ支拂フヘキ補償金ハ特許發明ノ實施ニ因ル利益金、特許發明ノ實施ノ許諾ニ對シテ支拂ヲ受ケタル報酬金、法律ノ規定ニ依リ實施權ヲ有スル者ヨリ支拂ヲ受ケタル補償金、特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ノ讓渡ニ因リ對價トシテ支拂ヲ受ケタル金額及特許權ノ制限、收用又ハ取消ニ因リ政府ヨリ補償金トシテ支拂ヲ受ケタル金額ノ百分ノ五十トス但シ發明ニ關スル事情其ノ他ヲ斟酌シ百分ノ二十五ノ範圍内ニ於テ本所ノ認定ニ依リ之レヲ增減スルコト得
數人ノ職員カ共同シテ發明ヲ爲シタルトキハ各發明者ニ支拂フヘキ補償金ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス此ノ場合ニ於テ各發明者ノ受クヘキ補償金額ハ本所ノ定ムル處ニ依ル

第三條ノ規定ニ依リ本所ト發明者ト特許權ヲ共有スル場合ニ於テハ發明者ノ持分ヲ以テ前項ノ補償金ト看做ス

特許権取得後五年ヲ經過スルモ第一項ノ補償金ヲ支拂フコト能ハサルトキハ本所ハ發明者ト協議シ相當ノ補償金ヲ支拂フモノトス

第六條 國其ノ他ノ法人又ハ個人ヨリ依託ヲ受ケタル研究生カ本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ之ヲ指導スル主任ノ研究員ト共同シテ發明ヲ爲シタルモノトス

第七條 職員カ本所ニ於テ職務上特許法第三條第二號乃至第三號ノ事項ニ付特許ヲ受クルコトヲ得サル發明ヲ爲シタルトキハ本所ハ物ノ發明ニ在リテハ其ノ物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有シ方法ノ發明ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及其方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

前項ノ場合ニ於テ本所ハ發明者ト協議シ相當ノ補償金ヲ支拂フモノトス

第八條 第二條ノ規定ニ依リ本所カ職員ノ爲シタル發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル場合ニ於テ本所カ其發明ニ付特許ノ出願ヲ爲サルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第九條 第二條ノ場合ニ於ケル本所ノ特許出願前又ハ前二條ノ場合ニ於テ發明者カ自ラ發明ヲ實施シ又ハ他人ニ發明ノ内容ヲ知ラシメタルトキハ本所ニ對シテ之レニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ賠償スヘキモノトス

第十條 本規程ハ實用新案若ハ意匠ノ登録ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權若ハ意匠權ニ付之レヲ準用ス
(参照)

規則第十二條本所ハ所長ノ外左ノ職員ヲ置ク

研究員、助手、技師、技手、主事、書記、雇

規則第十五條 所長ハ業務ノ都合ニ依リ嘱託員又ハ研究生ヲ置クコトヲ得

〔財團法人理化學研究所ト研究依頼者又ハ研究生依託者トノ間ニ於ケル

特許發明實用新案ノ實施許諾ニ關スル契約規準内規〕

一、本所ノ會員ハ本所ノ目的ニ屬スル一定ノ事項ニ付費用ヲ負擔シテ其ノ研究ヲ依頼スルコトヲ得

二、本所カ前項ノ依頼ニ應シ研究ヲ爲ス場合ニ於テ之レニ從事スル本所ノ職員カ發明ヲ爲シタルトキハ特許ヲ受クルノ權利ハ本所ニ於テ之レヲ承繼スルモノトス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ

三、本所カ前項ノ發明ニ付特許ヲ受ケタルトキハ本所ハ研究依頼者ニ之レヲ通知スルモノトス

四、研究依頼者カ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六月内ニ前項ノ特許發明ニ付實施ノ許諾ヲ求メタルトキハ本所ハ實施期間實施區域實施方法報酬額其ノ他ノ實施ノ條件ヲ協議シ、協議調ヒタルトキハ優先シテ之レニ實施ヲ許諾シ他人ニ其ノ實施ヲ許諾セサルモノトス

五、前項ノ規定ニ依リ研究依頼者ニ特許發明ノ實施ヲ許諾シタルトキハ其ノ限度ニ於テ本所ハ自ラ特許發明ノ實施ヲ爲サルモノトス

六、第四項ノ規定ニ依リ本所カ研究依頼者ニ特許發明ノ實施ヲ許諾スル場合ニ於テ研究依頼者カ本所ニ支拂フヘキ報酬額ハ特許發明ノ實施ニ依リ得タル利益金ノ百分ノ三十以上ニ相當スル金額トス

寄附行為、規則及規程

二五

七、削除

八、第六項ノ報酬金額ハ實施權者ニ營業年度ノ定メアル場合ニ於テハ營業年度ニ依リテ計算シ營業年度ノ末日ヨリ三十日内ニ營業年度ノ定メナキトキハ曆年ニ依リテ之レヲ計算シ翌年一月三十一日迄ニ本所ニ支拂フヘキモノトス

九、第四項ノ規定ニ依リ特許發明ノ實施ノ許諾ヲ受ケタル者カ許諾ノ日ヨリ一年内ニ其ノ實施ヲ爲ササルトキ、其ノ實施ヲ繼續シテ六月以上中止シタルトキ、其ノ實施ニ付充分ノ努力若ハ施設ヲ爲ササルモノト本所ニ於テ認メタルトキ又ハ本所ニ支拂フヘキ報酬金ノ支拂ヲ遲滯シ其ノ他ノ實施ノ條件ニ違背シタルトキハ本所ハ特許發明ノ實施ノ許諾ヲ取消シ損害ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

十、財團法人理化學研究所研究生規程ニ依リ國其ノ他ノ法人又ハ個人ヨリ委託ヲ受ケタル研究生カ本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ之ヲ指導スル主任ノ研究員ト共同シテ發明ヲ爲シタルモノトシ特許ヲ受クルノ權利ハ本所ニ於テ之レヲ承繼スルモノトス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ

十一、本所カ前項ノ發明ニ付特許ヲ受ケタル場合ニ於ケル研究生依託者ニ對スル實施權ノ許諾ニ關スル條件及許諾ノ取消ニ付テハ第四項第五項第八項及第九項ノ例ニ依ル

十二、前項ノ規定ニ依リ本所カ特許發明ノ實施ヲ許諾スル場合ニ於テ研究生依託者カ本所ニ支拂フヘキ報酬額ハ研究生ヲ指導シタル主任研究員ノ意見ヲ聽ギ本所ト研究依託者ト協議シテ之レヲ定ム

十三、實用新案ノ登録ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權ニ付テモ本内規ノ例ニ依ル

〔財團法人理化學研究所研究生規程〕

第一條 研究生ハ官廳公私團體若ハ個人ノ依託ニ依リ研究員ノ指導ノ下ニ研究ニ從事スルモノトス

第二條 研究生ハ専門ノ素養アル者ニシテ研究室主任ノ推薦ニ依リ所長之ヲ任用ス

第三條 研究生ハ無給トス但シ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

第四條 研究生ノ研究ニ要スル諸費ハ依託者ノ負擔トス但シ時宜ニ依リ本所之ヲ支辨スルコトアルヘシ

第五條 研究生ノ研究期間ハ二ヶ年以内トス但シ研究ヲ繼續セムトスル場合ニ於テハ研究室主任ノ許可ヲ得テ延期スルコトヲ得

第六條 研究生疾病其ノ他ノ事故ニ依リ成業ノ見込ナキトキハ所長之ヲ免ス

第七條 研究生退所セントスルトキハ理由ヲ具シ其ノ旨所長ニ出願スヘシ

〔財團法人理化學研究所工場技術練習生規程〕

第一條 練習生ハ官廳公私團體若ハ個人ノ依託ニヨリ工作係指導ノ下ニ實習ニ從事スルモノトス

第二條 練習生ハ相當ノ経歴アル者若ハ試験ノ上適當ト認メタル者ノ内ヨリ所長之ヲ任用ス

第三條 練習生ハ無給トス但シ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

第四條 練習生ノ實習ニ要セル諸費ハ本所之ヲ支辨ス但シ時宜ニ依リ依託者ノ負擔トスルコトアルヘシ

寄附行為、規則及規程

第五條 練習生ノ實習期間ハ一ヶ年以内トス但シ實習ヲ繼續セムトスル場合ニ於テハ工作係ノ許可ヲ得テ延期スル事ヲ得

第六條 練習生疾病其ノ他ノ事項ニ依リ作業ノ見込ナキトキハ所長之ヲ免ス

第七條 練習生退所セントスルトキハ理由ヲ具シ其ノ旨所長ニ出願スヘシ

五 位置、建物及設備

昭和十一年三月末日現在

〔位置〕 當所は本郷、小石川兩區の最北部の境界に跨つてゐて、購入敷地一萬二千坪（此價格金四拾參萬壹千參百拾圓八拾八錢）及岩崎男爵家寄附敷地一千八百十二坪である。即ち

本郷區駒込上富士前町

一萬五百七十八坪

小石川區駕籠町

四千二百三十四坪

〔建物及設備〕 當所の建物及設備は、大正七年度工事に着手し、大正十一年度に完成の豫定であったが、工事着手後建設材料及工賃の暴騰したのと、寄附金の收入が豫期の通りにならなかつたので、已むを得ず緊急を要するものから逐次施工したるが爲め、豫定の期間内に完成するに至らず、大正十四年度内に於て漸く豫定計畫の工事を終了した。而して研究の進むと共に從來の研究設備の擴張を必要とするもの、或は新に半工業的實驗設備を爲す必要を生じた爲め、建物設備が追加されて、創立以來昭和十年度末迄に投じた建設費は、敷地費を併せて

總額金六百六拾九萬二千百三十七圓九拾貳錢に達した、其明細は左の通りである。

建物の名稱は、正門を入り向つて左側を奇數、右側を偶數として、凡て番號を附けて居る。

第一號館 飯盛、磯部、和田、久保田、眞島（利）、鈴木（庸）、鈴木（梅）、大河内の八研究室、外に物品倉庫係、天秤室、燃燒室、引火性液蒸溜室、送風機室

第二號館 石田、磯部、西川、大河内、高嶺、長岡、眞島（正）、木下、清水、仁科の十研究室、恒溫室、材料研究室、圖書室、講演室、事務室

第三號館 石田、西川、高嶺、木下、長岡、仁科の六研究室

第四號館 西、瀬藤の二研究室、電力室及電氣爐室

第五號館 各種交流發電機室、液體空氣及酸素の製造場等

第六及八號館 機械工場、木工場、硝子工場、精密機械室、設計製圖室、內燃機關室、調整室
附屬——鑄工及鍛工場

第七號館 各種實驗場

第九號館 精機部作業場

第十號館 實驗室、書庫等

第十一號館 有機酸、レバー等の研究及作業場

位置、建物及設備

理化學研究所案内

三〇

第十二號館 化學實驗室

第十三、十五、十七號館 ヴイタミンAに關する研究及作業場

第十四、十六號館 實驗室

第十九號館 合成酒及アルコール蒸溜室

第二十一號館 酒貯藏庫

第二十三號館 井口、飯高、仁科、大河内、野口、深川の六研究室

第二十五號館 荣養素、デリカ等の研究作業場

第二十七號館 酸化皮膜研究室

是等建物の延坪數と建築費及設備費は左の通りである。

建 物 明 細 書

昭和十一年三月末日現在

| 名 | 稱 | 構造 | 延坪數 | 價 | 額 | 備 | 考 |
|------|------|-------|-----------|----|---|----|---|
| 第一號館 | 煉瓦三階 | 一、一二三 | 五七〇、一七二二四 | 化學 | 學 | 研究 | |
| 第二號館 | 鐵筋四階 | 一、一五一 | 五〇二、一九九六八 | 物理 | 理 | 研究 | |

| | | | | | | | |
|------|------|-----|------------|----|----|---|---|
| 第一號館 | 鐵筋二階 | 三三三 | 一一、三四八・一五 | 物 | 理 | 研 | 究 |
| 第二號館 | 鐵筋二階 | 三三五 | 一〇八、〇三五・八五 | 物 | 理 | 研 | 究 |
| 第三號館 | 煉瓦平家 | 一六七 | 六二、一三七・四九 | 電 | 力 | 酸 | 素 |
| 第四號館 | 鐵筋二階 | 四一一 | 一〇六、〇七〇・四五 | 機 | 械 | 製 | 作 |
| 第五號館 | 鐵骨平家 | 一一〇 | 一九、一〇二・四四 | 實 | 驗 | | |
| 第六號館 | 鐵骨平家 | 一一三 | 一六、五〇三・九五 | 機 | 械 | 製 | 作 |
| 第七號館 | 鐵骨平家 | 一一〇 | 一〇、九一二・一九 | 機 | 械 | 製 | 作 |
| 第八號館 | 鐵骨平家 | 一五三 | 三一、二二一・九九 | 機 | 械 | 製 | 作 |
| 第九號館 | 鐵骨平家 | 一〇一 | 一〇、〇一七・九二 | 機 | 械 | 製 | 作 |
| 第十號館 | 鐵骨平家 | 二三〇 | 二、八二一・一五 | 實 | 驗 | | |
| 十一號館 | 鐵骨平家 | 一〇一 | 一四、八六九・八五 | 化學 | 實驗 | | |
| 十二號館 | 木造平家 | 四〇 | 八、五三三・〇六 | 實驗 | 室 | | |
| 十三號館 | 木造平家 | 五二 | 二、六三七・七二 | 實驗 | 室 | | |
| 十四號館 | 木造平家 | 六〇 | 二、六三七・七二 | 實驗 | 室 | | |
| 十五號館 | 木造平家 | 三六 | 八、五三三・〇六 | 實驗 | 室 | | |
| 十六號館 | 木造平家 | 六〇 | 二、六三七・七二 | 實驗 | 室 | | |

| | | | | |
|-----------------|------|-----|------------|---------|
| 第十七號館 | 鐵骨平家 | 一一四 | 一六、七一九・五一 | ヴィタミン製造 |
| 第二十一號館 | 鐵骨平家 | 五九五 | 一〇四、五九〇・六三 | |
| 第二十三號館 | 鐵骨平家 | 八〇 | 二二、七五七・七〇 | 酒貯藏庫 |
| 第二十五號館 | 鐵筋三階 | 六三三 | 一九八、二九七・五四 | |
| 第二十七號館 | 木造平家 | 六七 | 二、七〇一・四八 | 實驗室 |
| 仁科研究室 | 木造平家 | 五二 | 一、七三一・六三 | |
| 仁科研究室 | 木造平家 | 七 | 二九二・二二 | |
| 材料置場 | 木造平家 | 二七 | 四、九七八・二四 | |
| 材料置場 | 木造平家 | 七 | 三一四・一〇 | |
| テトラリン工場 (柏崎) | 木造平家 | 七 | 二九二・二二 | |
| コラングム工場 | 木造平家 | 八九 | 四一〇 | |
| | 木造平家 | 八 | 二七、五一七・八一 | |
| | 木造平家 | 八 | 八、一八六・〇七 | |
| | 木造平家 | 六 | 棟 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--------|--------|-----------|--------------|------------|------------|--------|------|------|----------|----------|-----------|-------|--------|------|
| 感ラヒ光チン液工場 | 酒實驗室 | ト毒瓦斯室 | ネコラントダム工場 | 日反中轉映現畫像膜藥工場 | 久保田研究室(柏崎) | 電氣爐室 | 給水ボンブ室 | 變壓塔 | 變壓塔 | 蓄電池 | 鑄物場 | 鍛冶場 | 藥品庫 | 同 | 煉瓦平家 |
| 木造平家 | 木造平家 | 木造平家 | 木造平家 | 木造平家 | 木造平家 | 木造平家 | 木造平家 | 鐵筋平家 | 鐵筋平家 | 鐵筋平家 | 鐵筋平家 | 鐵筋平家 | 鐵筋平家 | 同 | 煉瓦平家 |
| 七一 | 一八 | 八五 | 七九 | 一六 | 三〇 | 五一 | 三〇 | 七一 | 三六 | 四六 | 三六 | 六 | 三 | 三 | 三 |
| 三、六四五・二四 | 八二一・六五 | 三一七・七〇 | 一、九〇九・三七 | 六九二・二〇 | 二、九八七・五九 | 二一八、九三一・二〇 | 三六〇・〇〇 | 二 | 一 | 九、七六七・五四 | 五、六七一・〇〇 | 一二、七〇七・五〇 | 四一、五〇 | 三九五・一五 | 三 |
| 二棟 | 三 | 二 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|--------|------|-----------|
| 變壓室 | 木造平家 | 二 |
| 排水ポンプ室 | 鐵骨平家 | 四 |
| 工作場 | 鐵筋平家 | 七三 |
| 作業場 | 鐵筋平家 | 三五 |
| 詰所 | 木造平家 | 一〇、〇一六・四一 |
| 守衛所 | 木造平家 | 五、三〇一・六八 |
| 倉庫 | 木造平家 | 一二〇 |
| 會議室 | 木造平家 | 四二 |
| 炊事場 | 木造平家 | 二二七 |
| 巡查合宿所 | 木造平家 | 一一八 |
| 倉庫 | 木造平家 | 五、四八〇・九五 |
| 會議室 | 木造平家 | 一六、五七二・八七 |
| 炊事場 | 木造平家 | 一、〇二四・九八 |
| 巡查合宿所 | 木造平家 | 二六、五〇〇・〇〇 |
| 舊事務所倉庫 | 木造平家 | 一、九五一・五八 |
| 表門衛所 | 木造平家 | 三〇〇・三七 |
| 住裏門衛所 | 木造平家 | 三、三二五・七六 |
| 木造平家 | 木造平家 | 四、四八四・五六 |

第一二十三號館附屬

合計

| | | |
|-----|-------|-------|
| 住宅 | 木造二階 | 四三 |
| 倉庫 | 木造平家 | 六四 |
| 休憩室 | 木造平家 | 五四 |
| 浴浴室 | 木造平家 | 三九 |
| 便所 | 木造平家 | 八 |
| 便所 | 木造平家 | 七 |
| 便所 | 木造平家 | 三 |
| 便所 | 木造平家 | 二 |
| 便所 | 木造平家 | 一 |
| 合計 | 七、七八一 | 七、七八一 |

設備明細書

位置、建物及設備

額備

考

三五



| | |
|----------------------------|--------------|
| 器 具 機 械 | 二、三三六、五六五・〇九 |
| 什 器 | 一九〇、一七二・三八 |
| 圖 書 | 四八五、一二八・〇二 |
| 電 氣 設 備 | 三八一、四九八・五八 |
| 瓦 斯 水 道 設 備 | 二八三、一六一・九五 |
| 暖 房 設 備 | 二五一、五八二・〇八 |
| 構 內 設 備 | 六四、一八一・〇八 |
| 合 計 | 三、九七四、四〇九・一八 |

六 昭和十一年度研究項目

〔研究事項〕 昨年度に於て研究事項は三百五拾六種であつたが本年度に在ては三百六拾九種に増加した。此等研究事項は、各研究室の主任研究員が随意に選擇するのである、又研究の範囲に於ても何等の制限をも置いてゐない、例へば化學者が物理の研究に立入ることも、物理學者が化學の研究に没頭することも其人の自由である。併し其の成績に就ては研究者は絶對の責任を負つてゐる。本年度の項目は次の如くである。

研究項目

昭和十一年四月

I 飯盛研究室

- 一 化學變化に伴ふ放射線の研究
- 二 鑛物の陰極線發光に關する研究
- 三 無機螢光體の研究
- 四 放射線の化學作用及び接觸作用
- 五 膠質化學に關する研究
- 六 寫真化學に關する研究
- 七 稀土類鑛物の研究
- 八 テルペン類の還元
- 九 生物に及ぼす放射線的作用
- 一〇 放射性元素の發生系統に就て
- 一一 アクチニウム系元素の研究

研究項目

| | | |
|-----|------|-------|
| 研究員 | 理學博士 | 飯盛里安 |
| 研究員 | 理學博士 | 吉村恂 |
| 研究員 | 理學博士 | 岩瀬榮一 |
| 研究員 | 理學博士 | 鈴木鎮二 |
| 研究員 | 理學博士 | 晋安恂安吉 |
| 研究員 | 理學博士 | 木村雄吉 |
| 研究員 | 理學博士 | 木村盛里 |
| 研究員 | 理學博士 | 吉村盛村 |
| 研究員 | 理學博士 | 鈴木里安 |
| 助手 | 理學士 | 岩瀬栄一 |
| 助手 | 理學士 | 石動弘 |
| 助手 | 理學士 | 畠中一 |
| 助手 | 理學士 | 鈴木鎮二 |
| 助手 | 理學士 | 晋安恂安吉 |

三七

理化學研究所案内

- 三 東京附近のロームの利用に關する研究
- 三 アスファルト及び之に類似せる物質の感光性成分の研究
- 四 邦産原鐵より稀元素の抽出

II 磨部研究室

石炭、木材、タール、ピッチ、重油等の高溫高壓に於ける水素添
加に關する一切の研究

六 電氣滲透に就ての研究

七 オージオ波通信に關する研究

| 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 |
|------|------|------|------|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|
| 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 工學士 | 工學士 | 理學博士 | 理學博士 | 研 | 研 | 研 | 研 | 研 | 研 | 研 | 研 | 研 | 研 | 研 | 研 |
| 鹿嶋 | 今子 | 甲阿吉 | 青杉 | 高中 | 箕萱 | 朝早 | 田伊遠 | 磯 | 井 | 本 | 永木 | 井島 | 作間 | 井川 | 中藤 | 藤部 | 西畠 | 吉飯 | 鈴飯 |
| 島 | 島 | 子 | 部 | 庄前 | 庄前 | 北草 | 岡田 | 研 | 井 | 儀幾 | 英三 | 志一 | 英正 | 洋太一 | 一太 | 義 | 村 | 盛 | 菊飯 |
| 敏一 | 敏一 | 上彦 | 上彦 | 小田 | 今芝 | 野 | 山莊 | 前 | 本司 | 根田 | 原間 | 健 | 隆 | 武時 | 要 | 省 | 郎 | 世郎 | 二安 |
| 井芝 | 井芝 | 山邊 | 林瀬 | 忠太 | 振 | 尻貞 | 本司 | 根田 | 司 | 根田 | 原間 | 三勤 | 三勤 | 重蕃 | 要 | 郎 | 郎 | 郎 | 安 |
| 三九 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 工學士 | 工學士 | 理學博士 | 理學博士 | 研 | 研 | 研 | 研 | 研 | 研 | 研 | 研 | 研 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 |

- 八 コロイド反應に就て
- 九 火山瓦斯に關する研究
- 一〇 吸着現象の研究
- 一一 生物のコロイド現象に就て
- 一二 ゴムに關する基礎的研究
- 一三 セメント類
- 一四 特殊ゲル
- 一五 結晶の成長
- 一六 無機鹽類の分子狀態
- 一七 溶液中に於ける溶質の分子狀態に就て
- 一八 液態アンモニヤ中に於ける金屬錯鹽
- 一九 低溫に於ける液體並に固體の吸收スペクトルに就て

III 石川研究室

(東北帝國大學內)

四〇

- | 題 | 研究員 | 理學博士 | 佐藤川 |
|----------------------|------------|-------------|-----|
| 三 無機化合物の生成遊離エネルギーの決定 | 研究员 雇 | 理學博士 高石 | 藤川 |
| 三 セレン化合物に關する研究 | 研究員 雇 | 理學博士 石川 | 井川 |
| 三 ハイドロサルファイトの研究 | 研究員 雇 | 理學博士 石川 | 總雄 |
| 四 活性炭素による鹽素の收着 | 研究員 助 | 理學博士 萩澤 | 總雄 |
| 五 液體亞硫酸に關する研究 | 研究員 手 | 理學博士 有井 | 浩 |
| 六 高低抗電池及び硝子電極の研究 | 研究生 嘱託 | 理學博士 癸巳雄 | 雄 |
| 七 チタニヤゲルによる氣體の收着 | 研究生 理學士 | 理學士 森一郎 | 川 |
| 八 氣體の熱傳導の化學研究上の應用 | 研究生 理學士 | 理學士 丸山謙次 | 藤川 |
| | 研究生 理學士 | 理學士 樋口 | 泉 |
| | 研究生 理學士 | 理學士 樋口 | 泉 |
| | 研究生 理學士 | 理學士 樋口 | 泉 |

石田研究室

ナミの距離往復によらざる光速度の比転測定

- | 助 研 生 | 理 學 士 | 上 久 保 島 | 助 手 | 理 學 士 | 武 藤 俊 之 | 助 手 | 理 學 士 | 福 石 島 | 嘱 記 | 研 究 員 | 雇 用 員 | 助 手 | 工 學 士 | 松 田 格 | 助 手 | 村 山 |
|-------|-------|---------|-----|-------|---------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-----|
| 助 研 生 | 理 學 士 | 上 久 保 島 | 助 手 | 理 學 士 | 武 藤 俊 之 | 助 手 | 理 學 士 | 福 石 島 | 嘱 記 | 研 究 員 | 雇 用 員 | 助 手 | 工 學 士 | 松 田 格 | 助 手 | 村 山 |
| 助 研 生 | 理 學 士 | 上 久 保 島 | 助 手 | 理 學 士 | 武 藤 俊 之 | 助 手 | 理 學 士 | 福 石 島 | 嘱 記 | 研 究 員 | 雇 用 員 | 助 手 | 工 學 士 | 松 田 格 | 助 手 | 村 山 |
| 助 研 生 | 理 學 士 | 上 久 保 島 | 助 手 | 理 學 士 | 武 藤 俊 之 | 助 手 | 理 學 士 | 福 石 島 | 嘱 記 | 研 究 員 | 雇 用 員 | 助 手 | 工 學 士 | 松 田 格 | 助 手 | 村 山 |
| 助 研 生 | 理 學 士 | 上 久 保 島 | 助 手 | 理 學 士 | 武 藤 俊 之 | 助 手 | 理 學 士 | 福 石 島 | 嘱 記 | 研 究 員 | 雇 用 員 | 助 手 | 工 學 士 | 松 田 格 | 助 手 | 村 山 |

V
井口研究室

- # 研究項目 冷凍機試驗法及冷媒流量計 電氣機器 冷却法

理化學研究所案内

四〇 防熱材料に關する研究

五一 濕り空氣冷却器の研究

五二 流體よりの熱傳達の研究

五三 復水管異狀腐蝕防止に關する研究

五四 短週期機械振動に關する研究

五五 材料試驗機に關する研究

五六 ダイナミック、スタチック、バランスング、マシン

五七 繊維素工業に關する研究

五八 飯高研究室

五九 高速度迴轉體の振動に關する研究

六〇 輕合金の研究

六一 金屬の腐蝕に就て

六二 ベリリウムが輕合金の腐蝕に及ぼす影響

六三 銃砲洗滌の一問題

六四 ペリリウム合金に就て

六五 耐熱材料に就て

六六 電氣冶金に關する研究

六七 鑄込み條件と合金の性質との關係

六八 鑄鐵並に鑄鋼に就て

研究項目

| 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 |
|-----------|------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|
| 四三 理學博士 | 四三 工學博士 | 四三 工學博士 | 四三 サバエラス博士 | 四三 サバエラス博士 | 四三 工學博士 | 四三 工學博士 | 四三 工學博士 | 四三 工學博士 | 四三 工學博士 | 四三 工學博士 | 四三 工學博士 | 四三 工學博士 | 四三 工學博士 | 四三 工學博士 |
| 四三 真飯高一統郎 | 四三 田飯中一武郎 | 四三 田飯浦一昇藏郎 | 四三 三鹽飯高一昇藏郎 | 四三 三鹽飯浦一昇藏郎 | 四三 松飯下高源一 | 四三 田飯中一武郎 | 四三 山飯邊高定郎 | 四三 山飯邊高定郎 | 四三 新飯知一 | 四三 田飯高一 | 四三 田飯高一 | 四三 田飯高一 | 四三 田飯高一 | 四三 田飯高一 | 四三 田飯高一 | 四三 田飯高一 | 四三 田飯高一 | 四三 田飯高一 | 四三 田飯高一 |
| 四三 細井春懸久 | 四三 久谷明太市和郎 | 四三 服久明好太和松衛 | 四三 林長井夫郎衛 | 四三 矢渡長仁順春 | 四三 佐長仁昭 | 四三 長井藤岡寅順 | 四三 長井藤岡寅順 | 四三 長井吉久 | 四三 下岡口嘉昭順 | 四三 下岡口嘉昭順 | 四三 岡口順春 | 四三 岡口順春 |
| 四二 理學博士 | 四二 理學博士 | 四二 理學博士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | 四二 理工學學士 | |
| 四二 細井春懸久 | 四二 久谷明太市和郎 | 四二 服久明好太和松衛 | 四二 林長井夫郎衛 | 四二 矢渡長仁順春 | 四二 佐長仁昭 | 四二 長井藤岡寅順 | 四二 長井藤岡寅順 | 四二 長井吉久 | 四二 下岡口嘉昭順 | 四二 下岡口嘉昭順 | 四二 岡口順春 | 四二 岡口順春 |

助手 手工學士 谷下市松

理化 研究所案内

六 高溫度の化學反應

七 金屬と酸との化學反應

八 電子廻折に依る金屬の研究

九 電子廻折に依る防蝕皮膜の研究

十 酢酼に關する研究

十一 環境と細菌の變化に就て

十二 アルミニウムに關する調査

十三 球狀火花間隙の研究

十四 電弧放電の研究

VII 西 研 究 室

モ 高電壓用電壓計の研究

ナ 高壓磁石發電機に關する研究

ヌ 點火栓に關する研究

ホ 絶緣油中に於ける高壓現象の研究

ヘ 高壓碍子の研究(特にピン碍子特性及不良検出に就て)

タ 誘電體損に關する研究(高電壓蓄電器の研究)

ツ 高溫度並に高周波に於ける誘電體現象の研究

ハ 異種誘電體界面及誘電體と金屬との界面に起る電氣現象
全 氣中放電の研究

研 究 項 目

| 四五 | 雇 研究員 | 研究員 | 助 研究員 | 研究員 | 雇 研究員 | 助 研究員 | 研究員 | 雇 研究員 | 研究員 | 雇 研究員 | 研究員 | 助 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 |
|----|-------|------|-------|------|-------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 農業學士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 |
| | 御本 西 | 塙岡西 | 大塙岡西 | 岡西 | 岡石西 | 塙岡西 | 大岡西 | 御本西 | | 岡本西 | 本西 | | | 農業學士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 |
| | 所多 康侃 | 崎義三 | 塙義三 | 崎三 | 崎黒三 | 崎義三 | 崎三 | 所多康侃 | | 崎多三侃 | 多侃 | | | 農業學士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 |
| | 七士 健 | 雄郎健 | 巖雄郎健 | 郎健 | 郎種健 | 雄郎健 | 巖郎健 | 七士健 | | 郎士健 | 士健 | | | 農業學士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 |

| 四四 | 助 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 |
|----|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 農業學士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 |
| | 岡本 西 | 塙岡西 | 大塙岡西 | 岡西 | 岡石西 | 塙岡西 | 大岡西 | 御本西 | | 岡本西 | 本西 | | | 農業學士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 |
| | 所多 康侃 | 崎義三 | 塙義三 | 崎三 | 崎黒三 | 崎義三 | 崎三 | 所多康侃 | | 崎多三侃 | 多侃 | | | 農業學士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 |
| | 七士 健 | 雄郎健 | 巖雄郎健 | 郎健 | 郎種健 | 雄郎健 | 巖郎健 | 七士健 | | 郎士健 | 士健 | | | 農業學士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 | 理工學博士 |

理化研究所案内

八 シエリング高壓電橋を應用せる誘電體現象の研究

四六

藤川由太郎
グエニマ
シレクタ
ニカリナ
シル

VIII 西川研究室

- 七 中性子の研究
- 八 中性子による γ 線の研究
- 九 高速度陰極線及硬X線に關する研究
- 一〇 陰極線又は真空放電によつて金屬面に生ずる殘効果
- 一一 サイクロトロンによる元素の人工變換に就て
- 一二 X線の結晶表面による非對稱反射に就て
- 一三 有機化合物構造のX線的研究
- 一四 結晶内に於ける原子團廻轉及び之に關聯せる諸現象の研究
- 一五 X線スペクトルによる固體状態の研究

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--------|---------|---------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 嘱託員 | 研究員 | 嘱託員 | 研究員 | 嘱託員 | 研究員 | 嘱託員 | 研究員 | 嘱託員 | 研究員 | 嘱託員 | 研究員 | 嘱託員 | 研究員 | 嘱託員 |
| 数中西元伊之助雄治 | 菊池正士 | 木村山一道治夫 | 木村山一道治夫 | 福島榮之助 | 西川正治 | 鶴山一 | 鶴山一 | 矢崎爲一 | 仁田勇 | 吉田早苗 | 吉田早苗 | 吉田早苗 | 吉田早苗 | 吉田早苗 |
| 高竹渡杉山新仁 | 一關淺竹石仁 | 有坂梅小玉朝仁 | 山田田林永科振 | 仁 | 仁 | 吉田早苗 |
| 野内邊本崎間科 | 戸内井科彌芳 | 山田木振 | 山田木振 | 田 | 田 | 吉田早苗 |
| 玉扶朝文啓芳 | 虎芳千芳 | 兼昌英芳 | 孝一 | 英 | 孝一 | 吉田早苗 |
| 吉征生雄男三雄 | 雄郎廣征彦雄 | 孝一 | 英 | 孝一 | 英 | 吉田早苗 |

IX 仁科研究室

- 一〇 平面格子による超軟X線用スペクトログラフの製作
- 一一 硫黃結晶の構造に就て

九 量子論

九 宇宙線の研究

八 原子核の變換並に人工放射能の研究

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--------|---------|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 嘱託員 | 研究員 | 嘱託員 | 研究員 | 嘱託員 | 研究員 | 嘱託員 | 研究員 | 嘱託員 | 研究員 | 嘱託員 | 研究員 | 嘱託員 | 研究員 | 嘱託員 |
| 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 |
| 高竹渡杉山新仁 | 一關淺竹石仁 | 有坂梅小玉朝仁 | 山田田林永科振 | 仁 | 仁 | 吉田早苗 |
| 野内邊本崎間科 | 戸内井科彌芳 | 山田木振 | 山田木振 | 田 | 田 | 吉田早苗 |
| 玉扶朝文啓芳 | 虎芳千芳 | 兼昌英芳 | 孝一 | 英 | 孝一 | 吉田早苗 |
| 吉征生雄男三雄 | 雄郎廣征彦雄 | 孝一 | 英 | 孝一 | 英 | 吉田早苗 |

理化學研究所案內

一〇一 中性子の研究

- 二〇一 金屬材料の冷却中に於ける熱的内部歪の研究
二〇二 強磁性體論の研究
二〇三 銅、ニッケル、亞鉛、三元素狀態圖の研究
二〇四 特殊銅合金に關する研究
二〇五 鋼の燒入れに關する研究
二〇六 元素の寫眞乾板に對する作用
二〇七 鐵及鐵鹽のX線吸收スペクトル
二〇八 磁氣變態點に於ける接觸反應

XI 大河內研究室

- 二二 衝撃試験に於ける力の測定
二三 材料破壊に關する研究
二四 音と其記錄に關する研究
二五 ラッピング仕上に關する研究
二六 工具の力學
二七 プレス工作法に關する研究
二八 壓延に關する研究
二九 タンゲステン鋼の熱處理に關する研究

研究項目

四八

| 研究員 | 助研究員 | 研究員 | 助研究員 | 研究員 | 研究員 | 助研究員 | 研究員 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 理學博士 |
| 青山新一 | 瀨井忠政 | 袋井忠 | 山佐勝 | 田清 | 田莞 | 廣根 | 廣德 | 廣太 | 廣太太 | 高野玉 | 杉仁 | 杉明 | 杉崎 | 杉邊 | 杉扶 | 杉芳 | 杉雄 | 杉吉 | 杉雄 |
| | 政夫 | 一夫 | 清吉 | 爾爾 | 爾爾 | 郎郎 | 郎郎 | 郎郎 | 郎郎 | 三 | 三男 | 三夫 | 三生 | 三生 | 三託 | 三託 | 三雄 | 三雄 | 三雄 |

理化學研究所案内

五〇

- 三〇 各種轉子軸承の構造と其製造法
- 三一 光學硝子及金屬品の球面、平面、及平行面の研磨方法
- 三二 ローラーチェーンの製造装置
- 三三 特殊工作機械に關する研究
- 三四 ピストンリングに關する研究
- 三五 旋盤ベッドの精密仕上に關する研究
- 三六 氣泡狀瓦斯の吸收に關する研究
- 三七 炭酸瓦斯工業
- 三八 冷凍機に關する研究
- 三九 金屬及び合金の腐蝕に關する研究
- 四〇 窒化物に關する研究
- 四一 マグネシウム精煉に關する研究

XII 和田研究室

- 二三 金屬マグネシウム製造法の改良
- 二四 熔融鹽の電解に關する研究
- 二五 ガリウムの分離及び定量
- 二六 電壓滴定に關する研究
- 二七 金屬シアノ錯鹽と金屬元素との反應
—新原理による直接滴定法
- 二八 示差電氣滴定の實用及び裝置
- 二九 容量分析上重要な化合物の示性式
- 三〇 多原子分子の吸收スペクトル
- 三一 種々なる化合物の轉移點降下
- 三二 或觸媒の作用
- 三四 日本標準規格の調査に要する諸研究
- 三四 化學反應の機構と吸收スペクトル

研究項目

五一

| | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 研究員 | 助研究員 |
| 理學博士 |
| 染加 | 關石 | 北島 | 飯島 | 賀島 | 大河 | 工學博士 |
| 野藤 | 井島 | 和田 | 猪 | 一三 | 内正敏 | 今富 | 星佐 | 前田 | 大河 | 大河 | 大河 | 大河 | 大河 | 大河 |
| 藤セ | 幹次 | 幸 | 三郎 | 雄省 | 正一郎 | 祥一郎 | 芳佐 | 洋一 | 内正敏 | 玄次郎 | 内正敏 | 次郎 | 吉年 | 正敏 |
| 子チ | 郎 | 三省 | 郎 | 一郎 | 一郎 | 一郎 | 次郎 | 樹俊 | 大河 | 大河 | 大河 | 大河 | 大河 | 大河 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 研究員 | 助研究員 |
| 工學博士 |
| 松福 | 星佐 | 前田 | 大河 |
| 田井 | 芳佐 | 洋一 | 内正敏 |
| 正伸 | 次郎 | 樹俊 | 一郎 |
| 一一敏 | | | | | | | | | | | | | | |

理化學研究所案内

五〇

- 二三 金屬マグネシウム製造法の改良
- 二四 熔融鹽の電解に關する研究
- 二五 ガリウムの分離及び定量
- 二六 電壓滴定に關する研究
- 二七 金屬シアノ錯鹽と金屬元素との反應
—新原理による直接滴定法
- 二八 示差電氣滴定の實用及び裝置
- 二九 容量分析上重要な化合物の示性式
- 三〇 多原子分子の吸收スペクトル
- 三一 種々なる化合物の轉移點降下
- 三二 或觸媒の作用
- 三四 日本標準規格の調査に要する諸研究
- 三四 化學反應の機構と吸收スペクトル

研究項目

五一

理化學研究所案内

一四 銀タリウム群元素の分離法

一五 硅酸の容量分析法

一六 レニウムの分離及検出の方法

一七 吸收スペクトルから観た溶媒

一八 日本鐵鋼標準試料の分析調査

XIII 片山研究室

(東京帝國大學内)

一九 化學構造の理論的研究

二〇 重水素に関する速度論の問題

二一 溶液中の分子分極と化學構造との關係

二二 ラマン効果の新構造論的研究

五二

助研究員

一九 真空放電による極端紫外部スペクトル検査

研究項目

XIV 高嶺研究室

- 一九 真空放電による極端紫外部スペクトル検査
- 一六 真空放電に於ける吸收スペクトル
- 一五 赤外スペクトル
- 一四 真空放電に於ける吸收スペクトル
- 一三 真空放電に於ける吸收スペクトル
- 一一 真空放電に於ける吸收スペクトル
- 一〇 真空放電に於ける吸收スペクトル
- 九 真空放電に於ける吸收スペクトル
- 八 真空放電に於ける吸收スペクトル
- 七 真空放電に於ける吸收スペクトル
- 六 真空放電に於ける吸收スペクトル
- 五 真空放電に於ける吸收スペクトル
- 四 真空放電に於ける吸收スペクトル
- 三 真空放電に於ける吸收スペクトル
- 二 真空放電に於ける吸收スペクトル
- 一 真空放電に於ける吸收スペクトル

理化學研究所案士

一三 超高振動電波によつて發揮するスペクトル(極端紫外部)

一四 金屬分子のスペクトル(極端紫外部を含む)

一五 水素及重水素の極端紫外部の分子スペクトルの研究

一六 赤外より真空領域に亘る各種分光寫真機の製作

一七 Cucl · Agcl · Aucl 分子の帶スペクトルの構造

一八 瓦斯狀多原子分子のラマン効果及び吸收スペクトル

一九 量子統計力学

五四

研究員 理學博士 福田 光治

研究員 理學博士 福田 光治

研究員 理學博士 田藤 中岡 善由

研究員 理學博士 田藤 中岡 善由

研究員 理學博士 今西 直

XVI 野口研究室

XV 長岡研究室

- 一三 超短波を用ひスペクトル線超微構造測定
- 一四 無極放電の研究
- 一五 高電壓強電流を用ふるスペクトルの研究
- 一六 電磁コイル其他の計算
- 一七 電子の波状構造及びこれに關する諸問題
- 一八 一次及二次電池の研究
- 一九 電解成極の逆起電力に關する研究
- 二〇 高溫度に於ける電氣絕緣
- 二一 雲母の電氣絕緣性能
- 二二 高級内燃機用點火栓

理化研究所案内

- 一八 電氣的波形分析機
- 一九 電氣滲透淨水法
- 二〇 電解に依る重水の濃縮

XVII 久保田研究室

- 一六 自然瓦斯の利用に關する研究（其一）
（其二）
- 一七 同
（其一）
- 一八 水素添加作用の研究
（其一）
- 一九 公孫樹葉中より抽出せらるゝ成分研究
（其一）
- 二〇 有機アミンに關する研究
（其一）

五七

| | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|-----|------|
| 研究生 | 理學博士 | 助研究員 | 理學博士 | 研究員 | 工學博士 | 研究員 | 工學博士 |
| 助研究員 | 理學博士 | 研究員 | 理學博士 | 助研究員 | 工學博士 | 研究員 | 工學博士 |
| 研究員 | 理學博士 | 助研究員 | 理學博士 | 研究員 | 工學博士 | 研究員 | 工學博士 |
| 助研究員 | 理學博士 | 研究員 | 理學博士 | 助研究員 | 工學博士 | 研究員 | 工學博士 |
| 研究員 | 理學博士 | 助研究員 | 理學博士 | 研究員 | 工學博士 | 研究員 | 工學博士 |
| 助研究員 | 理學博士 | 研究員 | 理學博士 | 助研究員 | 工學博士 | 研究員 | 工學博士 |
| 研究員 | 理學博士 | 助研究員 | 理學博士 | 研究員 | 工學博士 | 研究員 | 工學博士 |
| 助研究員 | 理學博士 | 研究員 | 理學博士 | 助研究員 | 工學博士 | 研究員 | 工學博士 |
| 研究員 | 理學博士 | 助研究員 | 理學博士 | 研究員 | 工學博士 | 研究員 | 工學博士 |

| | | |
|-------|-----|-------|
| 下五山栗野 | 田野口 | 狩野忠孝 |
| 川十嵐順 | 田義孝 | 田正信顯重 |
| 二一廣穂重 | 廣重 | 重信顯重 |

五六

| | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|-----|------|
| 研究员 | 理學博士 | 研究员 | 理學博士 | 研究员 | 工學博士 | 研究员 | 工學博士 |
| 助研究员 | 理學博士 | 研究员 | 理學博士 | 助研究员 | 工學博士 | 研究员 | 工學博士 |
| 研究员 | 理學博士 | 助研究员 | 理學博士 | 研究员 | 工學博士 | 研究员 | 工學博士 |
| 助研究员 | 理學博士 | 研究员 | 理學博士 | 助研究员 | 工學博士 | 研究员 | 工學博士 |
| 研究员 | 理學博士 | 助研究员 | 理學博士 | 研究员 | 工學博士 | 研究员 | 工學博士 |
| 助研究员 | 理學博士 | 研究员 | 理學博士 | 助研究员 | 工學博士 | 研究员 | 工學博士 |
| 研究员 | 理學博士 | 助研究员 | 理學博士 | 研究员 | 工學博士 | 研究员 | 工學博士 |
| 助研究员 | 理學博士 | 研究员 | 理學博士 | 助研究员 | 工學博士 | 研究员 | 工學博士 |
| 研究员 | 理學博士 | 助研究员 | 理學博士 | 研究员 | 工學博士 | 研究员 | 工學博士 |
| 助研究员 | 理學博士 | 研究员 | 理學博士 | 助研究员 | 工學博士 | 研究员 | 工學博士 |

| | | |
|-------|-----|-------|
| 下五山栗野 | 田野口 | 狩野忠孝 |
| 川十嵐順 | 田義孝 | 田正信顯重 |
| 二一廣穎重 | 廣重 | 重信顯重 |

五七

| | | |
|------|-----|--------|
| 研究生 | 理學士 | 林太郎 |
| 助研究員 | 理學士 | 花井定彦 |
| 研究员 | 理學士 | 吉河清 |
| 助研究員 | 理學士 | 村田真一 |
| 研究员 | 理學士 | 久保田中龍雄 |
| 助研究員 | 理學士 | 久保田中龍雄 |
| 研究员 | 理學士 | 久保田中龍雄 |
| 助研究員 | 理學士 | 久保田中龍雄 |

| | | |
|------|------|--------|
| 研究员 | 理學博士 | 林太郎 |
| 助研究員 | 理學博士 | 花井定彦 |
| 研究员 | 理學博士 | 吉河清 |
| 助研究員 | 理學博士 | 村田真一 |
| 研究员 | 理學博士 | 久保田中龍雄 |
| 助研究員 | 理學博士 | 久保田中龍雄 |
| 研究员 | 理學博士 | 久保田中龍雄 |
| 助研究員 | 理學博士 | 久保田中龍雄 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 研 | 究 | 員 | 研 | 究 | 員 | 研 | 究 | 員 | 研 | 究 | 員 | 研 | 究 | 員 | |
| 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 研 |
| 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 研 |
| 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 研 |
| 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 研 |
| 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 研 |
| 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 研 |
| 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 研 |
| 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 研 |
| 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 究 | 研 | 員 | 研 |

五七

XVIII 真島(利)研究室 (一部は大阪帝國大學内)

- 一七 漆主成分の研究補遺
同上の合成的研究
- 一八 アルカロイド類に關する研究
- 一九 松葉の香氣に關する研究
- 二〇 特種色素に關する研究

研究項目

五七

理化學研究所案内

- 二〇一 チオインデゴ属色素の研究
- 二〇二 赤外線感光色素の合成
- 二〇三 アゾ色素の研究
- 二〇四 天然色素の研究
- 二〇五 細菌性色素の研究
- 二〇六 動物の發光體に關する研究
- 二〇七 ホルモン類の合成
- 二〇八 水產化學に關する研究
- 二〇九 エゴノールの研究
- 二一〇 配糖體の合成
- 二一一 炭水化物の分解還元に關する研究
- 二一二 油脂類に關する研究

XIX 真島(正)研究室

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|--------|-----|------|--------|-----|------|--------|-----|------|--------|-----|------|--------|-----|------|--------|
| 研究員 | 工學博士 | 真島正市 |
| 研究員 | 工學博士 | 和田左京 |
| 研究員 | 工學博士 | 中村照子 |
| 研究員 | 理學博士 | 上野繁藏 |
| 研究員 | 理學博士 | 丸尾輝太郎 |
| 研究員 | 理學博士 | 和田千水力 |
| 研究員 | 理學博士 | 松尾限太郎 |
| 研究員 | 理學博士 | 丸尾形輝太郎 |
| 研究員 | 理學博士 | 和田一郎 |

五八

- 二二一 热輻射綫測定法
- 二二二 衝擊に關する研究
- 二二三 急速加熱による金屬の變態點の研究
- 二二四 六方晶系結晶のラヂオグラフ
- 二二五 電場に於ける微粒の運動
- 二二六 精密歪計の研究
- 二二七 高速度回轉寫真機の研究
- 二二八 衝擊現象の研究
- 二二九 光彈性實驗の研究
- 二二一〇 回轉體の内力の研究
- 二二一一 フエノライト製作の研究
- 二二一二 金屬破壊機構の研究

研究項目

五九

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-----|------|-----|------|------|-----|------|------|-----|------|------|-----|------|------|-----|------|------|
| 助手 | 工學士 | 黑田正夫 | 研究員 | 工學博士 | 和辻謙之 | 研究員 | 工學博士 | 西辻二郎 |
| 助手 | 工學士 | 黑田正夫 | 研究員 | 工學博士 | 和辻謙之 | 研究員 | 工學博士 | 西辻二郎 |
| 助手 | 工學士 | 黑田正夫 | 研究員 | 工學博士 | 和辻謙之 | 研究員 | 工學博士 | 西辻二郎 |
| 助手 | 工學士 | 黑田正夫 | 研究員 | 工學博士 | 和辻謙之 | 研究員 | 工學博士 | 西辻二郎 |
| 助手 | 工學士 | 黑田正夫 | 研究員 | 工學博士 | 和辻謙之 | 研究員 | 工學博士 | 西辻二郎 |

理化學研究所案

三六 微細目盛の研究

三七 電子幾何光學器械の研究

三八 マグネシウム晶華結晶の研究

三九 金屬單結晶の研究

三〇 變態點に於ける變形

XX 深川研究室

二二 復水管異常腐蝕並に其防止に關する研究

二三 銅合金腐蝕の際に於けるペーティングに關する研究

二四 諸金屬の高溫度酸化現象に關する研究

二五 特種塗料に關する研究
(イ) 船底に固着する生物の生態學的研究

(ロ) 船底塗料の化學的研究

二六 精密測定の研究

二七 有機性絕緣體に關する化學的研究

二八 魚介類の生物化學的研究

二九 油脂の研究

三〇 粮穀利用の研究

(イ) 活性炭製造研究

(ロ) 含有物質の化學的研究

三一 挥發性金屬化合物の化學的研究

三二 繰返し熱壓力に依る金屬の龜裂發生現象に關する研究

三三 特種鑄鐵の研究

三四 活性炭の研究

三五 齒材合金の研究

三四 接觸反應の研究

研究項目

六〇

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|-----|------|------|------|-------|-------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|
| 嘱託員 | 嘱託 | 嘱託 | 嘱託員 | 嘱託員 | 助研究員 | 臨助研究員 | 臨助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 |
| 理學博士 | 理學士 | 理學士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學士 |
| 余深 | 畠 | 余 | 淺平深 | 木深 | 鈴深 | 大神深 | 竹趙崔深 | 狩趙崔 | 崔深 | 崔深 | 石野 | 神鈴深 | 久神深 | 狩大神深 | 山川 | 渡黑 | 渡田 |
| 川 | 田 | 六 | 田川 | 山川 | 木庫 | 橋賢一庫 | 下廣三庫 | 野廣三 | 川 | 川 | 田村 | 山木庫 | 下山は賢一 | 澤川 | 山口 | 井誠 | 邊正 |
| 六 | 詮 | | 光虎庫 | 英庫 | | 雄 | | | 三 | 三 | 周七 | | 郎豊造 | 郎造 | 珪 | 恒夫 | 恒夫 |
| 鐵造 | 二 | 鐵 | 雄造 | 一造 | 豐造 | 二郎造 | 博河悅造 | 康河悅 | 川 | 悦造 | 三錄 | | | 康郎郎造 | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|-----|------|------|------|-------|-------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|
| 嘱託員 | 嘱託 | 嘱託 | 嘱託員 | 嘱託員 | 助研究員 | 臨助研究員 | 臨助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 | 助研究員 |
| 理學博士 | 理學士 | 理學士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 工學博士 | 工學博士 | 工學士 |
| 余深 | 畠 | 余 | 淺平深 | 木深 | 鈴深 | 大神深 | 竹趙崔深 | 狩趙崔 | 崔深 | 崔深 | 石野 | 神鈴深 | 久神深 | 狩大神深 | 山川 | 渡黑 | 渡田 |
| 川 | 田 | 六 | 田川 | 山川 | 木庫 | 橋賢一庫 | 下廣三庫 | 野廣三 | 川 | 川 | 田村 | 山木庫 | 下山は賢一 | 澤川 | 山口 | 井誠 | 邊正 |
| 六 | 詮 | | 光虎庫 | 英庫 | | 雄 | | | 三 | 三 | 周七 | | 郎豊造 | 郎造 | 珪 | 恒夫 | 恒夫 |
| 鐵造 | 二 | 鐵 | 雄造 | 一造 | 豐造 | 二郎造 | 博河悅造 | 康河悅 | 川 | 悦造 | 三錄 | | | 康郎郎造 | | | |

理化學研究所案内

- 二四五 蟻蜍の有毒成分の化學的研究
- 二五六 配糖體に關する研究
- 二五七 ストリキニーネの化學的構造の研究

六二

| | | |
|-----|------|-------|
| 研究員 | 理學博士 | 小竹無二雄 |
| 研究員 | 理學博士 | 小竹無二雄 |
| 研究員 | 理學博士 | 小竹無二雄 |

XXI 喜多研究室（京都帝國大學内）

- 二五八 油脂の重合に關する研究
- 二五九 ハロゲンヒドリンに關する研究
- 二六〇 高級インダンスレン系染料の合成
- 二六一 一酸化炭素の常壓接觸的還元によるベンゼンの合成
- 二六二 ヴィスコース其他纖維素製品に關する研究
- 二六三 パルプに關する研究

| | | |
|-----|----|----|
| 研究員 | 嘱託 | 助手 |

研究員

嘱託

助手

助手

助手

助手

- 二五四 纖維形態學的研究
- 二五五 米澱粉特に米饭のコロイド化學的研究
- 二五六 コロイドの粘度的性質に關する研究
- 二五七 コロイド溶液の擴りに關する研究
- 二五九 高分子物質に關するX線的研究
- 二六一 有機コロイドの透電的研究
- 二六二 高分子物質並に其類似物の擴散的研究
- 二六三 纖維素の醋酸化並に醋酸纖維素の溶解性に關するコロイド化學的研究
- 二六四 瓦斯反應の分光學的研究

XXII 木村研究室（京都帝國大學内）

- 二五二 紫外領域に於ける沃度並に臭素の分子スペクトル
- 二五三 酸素の禁制線
- 二五四 瓦斯反應の分光學的研究

研究項目

六三

| | | |
|-----|------|------|
| 研究員 | 理學博士 | 木村正路 |

理化學研究所案内

- 二五 高溫度に於ける氣體分子の發光
 二六 金屬薄膜の分光學的研究
 二七 内部電子の勵起に就て
 二八 感光電導性物質の光の波長に關する研究
 蒼鉛及び硫黃の二成分系の物質の可視
 及び赤外領域に於ける感光電導性に就て

XXIII 木下研究室

二九 潤滑油の研究

二〇 霧の輻射線透過に就て

二一 热輻射に關する研究

二二 摂氏零度の絶對溫度値測定

六四

囁 託 理學博士 内田洋一
 研究生 理學士 副島吉雄
 囁 託 理學博士 浅越貫一
 浅居ちか

囁 託 理學博士 工學博士
 研究生 理學士 工學博士
 助研究手 理學博士 工學博士
 研究員 理學博士 工學博士
 川木川石下
 石木下山
 阿吉井下
 石木下山
 川木中島
 岸本下山
 川木島山
 下下正
 千正邦勝
 千正邦勝
 介雄彦哉
 介雄彦哉

- 二三 超音波の研究
 二四 濕氣の滲透に就て
 二五 高壓高溫水管の熱傳播に就て

XXIV 清水研究室

二六 高電壓發生法に關する研究

二七 特殊映寫機構に關する研究

二八 微壓計に關する研究

二九 靜電力の一應用に關する研究

二〇 霧函による放射線の研究

二一 瓦斯の爆發に關する研究

研究項目

| 助 手 | 助 研究員 | 助 研究員 | 助 研究員 | 助 研究員 | 研 究員 | 助 研究員 | 助 研究員 | 囁 託 研究員 | 助 研究員 | 助 研究員 | 助 研究員 | 助 研究員 |
|-----------|-----------|---------|---------|-----------|---------|---------|---------|-----------|---------|---------|---------|---------|
| 理 學 士 | 理 學 博 士 | 理 學 博 士 | 理 學 博 士 | 理 學 博 士 | 理 學 博 士 | 工 學 博 士 | 工 學 博 士 | 工 學 博 士 | 工 學 博 士 | 工 學 博 士 | 工 學 博 士 | 工 學 博 士 |
| 湯 本 清 比 古 | 渡 清 武 | 平 清 武 | 渡 清 武 | 山 清 武 | 川 木 | 石 木 | 阿 吉 石 木 | 早 大 木 | 内 木 | 中 内 木 | 菅 木 | 下 義 正 |
| | 水 本 清 比 古 | 森 武 三 雄 | 井 水 俊 武 | 本 水 三 古 雄 | 研 正 介 雄 | 千 正 寺 雄 | 邦 勝 千 正 | 川 石 康 二 正 | 下 山 正 | 島 山 正 | 下 山 正 | 夫 雄 |
| | 慧 雄 | 哲 正 雄 | | | | | | 式 郎 雄 | 清 雄 | 正 清 雄 | | |

六五

理化研究所案内

- 二二 粉體内の壓力測定
- 二三 物體表面の粗鬆度に關する研究
- 二四 振動體による流體の運動
- 二五 X線による物質構造の研究
- 二六 固體の變形及破壊に關する研究
- 二七 波動學の統計的研究
- 二八 火花放電に關する研究
- 二九 粉體の物理的性質
- 二〇 電解質溶液の理論的研究
- 二一 重要常數の値の決定
- 二二 火花放電に關する研究
- 二三 燃燒現象の物理的研究
- 二四 割れ目に關する研究

XXV 潤藤研究室

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 |
| 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 |
| 長柳中赤 | 長赤 | 齊瀬 | 齊鰐瀬 | 齊鰐瀬 | 木鰐高江宮瀬 | 清鰐宮瀬 | 嘱託理學博士 | 嘱託理學士 |
| 澤村平 | 尾平 | 藤 | 原藤 | 原藤 | 村原須守 | 田藤 | 中谷宇吉郎 | 金原壽郎 | 田幸彦太郎 | 山本龍森 | 平田森 | 筒井俊正 | 渡邊 | 湯本清比古 |
| 利太 | 利武 | 象 | 一象 | 一象 | 光一次 | 太象 | 藤英一 | 島浩 | 龜吉 | 三三 | 三 | 俊正 | | |
| 一郎郎雄 | 一雄 | 治二 | 治郎二 | 治郎二 | 男郎郎郎聽二 | 郎郎聽二 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | 嘱託研究員 | |
| 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | |
| 長柳中赤 | 長赤 | 齊瀬 | 齊鰐瀬 | 齊鰐瀬 | 木鰐高江宮瀬 | 清鰐宮瀬 | 嘱託理學博士 | 嘱託理學士 | 嘱託理學士 | 嘱託理學士 | 嘱託理學士 | 嘱託理學士 | 嘱託理學士 | |
| 澤村平 | 尾平 | 藤 | 原藤 | 原藤 | 村原須守 | 田藤 | 中谷宇吉郎 | 金原壽郎 | 田幸彦太郎 | 山本龍森 | 平田森 | 筒井俊正 | 渡邊 | 湯本清比古 |
| 利太 | 利武 | 象 | 一象 | 一象 | 光一次 | 太象 | 藤英一 | 島浩 | 龜吉 | 三三 | 三 | 俊正 | | |
| 一郎郎雄 | 一雄 | 治二 | 治郎二 | 治郎二 | 男郎郎郎聽二 | 郎郎聽二 | | | | | | | | |

- 二五 アルミニウム酸化皮膜の電氣的應用
- 二六 アルミニウム酸化皮膜の一般的應用
- 二七 電氣半導體の研究
- 二八 硫化銀の電氣的性質及びその應用
- 二九 電氣機械用炭素刷子の研究
- 二〇 電氣座標計器の應用
- 二一 絶緣破壞電壓の統計的研究
- 二二 エナメル線塗裝方法の改良

理化學研究所案内

- 三〇一 薄膜誘電體の絶縁破壊の研究
- 三〇二 電氣絕緣材料の高周波特性
- 三〇三 硝子の電氣的特性及び電氣工學的應用
- 三〇四 電氣高抵抗體の研究
- 三〇五 塗裝絕緣電線試驗機
- 三〇六 琥珀に關する研究
- 三〇七 電磁型及び靜電型サイクログラフの改良と應用
- 三〇八 漆の電氣的性質

三一 種々なるアルミニウム酸化皮膜の生成法とその性質

三二 酸化皮膜を媒介とするアルミニウムの塗裝法及び其塗料の研究

三三 アルミニウム酸化皮膜の工藝的應用

三四 電解型蓄電器の特性及製法

三五 電解型蓄電器の應用

XXVI 鈴木(庸)研究室

- 三六 有機硫黃化合物に就て
- 三七 感光性色素の寫眞化學的研究
- 三八 赤外線寫眞
- 三九 アゾ染料應用に關する研究
- 三〇 船底塗料の研究
- 三一 寫眞乳劑化學に關する研究
- 三二 セメントに關する研究

研究項目

| | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|-----|-----|-------|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|
| 雇研究員 | 雇研究員 | 雇研究員 | 雇研究員 | 雇研究員 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 |
| 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 |
| 助手 | 助手 | 助手 | 助手 | 助手 | 岡高宮 | 岡高宮 | 末寺寺本宮 | 岡宮 | 赤平 | 赤平 | 赤平 | 赤平 | 赤平 | 赤平 |
| 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 田須田 | 田須田 | 吉井保田 | 田良 | 武雄 | 武雄 | 嘉萬好武 | 正武 | 利武 | 一雄 |
| 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 良次 | 良次 | 吉芳外 | 敏治 | 敏光一治 | 守太 | 守太 | 守太 | 守太 | 守太 |
| 碩士 | 碩士 | 碩士 | 碩士 | 碩士 | 夫郎聰 | 夫郎聰 | 五三直次 | 敏治 | 敏光一治 | 守太 | 守太 | 守太 | 守太 | 守太 |
| 見敬 | 見敬 | 見敬 | 見敬 | 見敬 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 |
| 笠井康一 | 笠井康一 | 笠井康一 | 笠井康一 | 笠井康一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|-----|-----|-------|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|
| 雇研究生 | 雇研究生 | 雇研究生 | 雇研究生 | 雇研究生 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 |
| 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 | 工學士 |
| 助手 | 助手 | 助手 | 助手 | 助手 | 岡高宮 | 岡高宮 | 末寺寺本宮 | 岡宮 | 赤平 | 赤平 | 赤平 | 赤平 | 赤平 | 赤平 |
| 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 | 田須田 | 田須田 | 吉井保田 | 田良 | 武雄 | 武雄 | 嘉萬好武 | 正武 | 利武 | 一雄 |
| 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 理學博士 | 良次 | 良次 | 吉芳外 | 敏治 | 敏光一治 | 守太 | 守太 | 守太 | 守太 | 守太 |
| 碩士 | 碩士 | 碩士 | 碩士 | 碩士 | 夫郎聰 | 夫郎聰 | 五三直次 | 敏治 | 敏光一治 | 守太 | 守太 | 守太 | 守太 | 守太 |
| 見敬 | 見敬 | 見敬 | 見敬 | 見敬 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 | 郎 |
| 笠井康一 | 笠井康一 | 笠井康一 | 笠井康一 | 笠井康一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |

六八

六九

理化學研究所案内

- 三三 炭酸マグネシウム製造に關する研究
 三四 保溫材に關する研究
 三五 結晶アルミナに關する研究
 三六 光分解に關する研究
 三七 アルミニウム製造の研究
 三八 有機金屬化合物
 三九 有機セレン化合物の研究

七〇

- | | | |
|-----|------|-------|
| 研究員 | 理學博士 | 寺田喜代松 |
| 研究員 | 理學博士 | 寺田喜代松 |
| 研究員 | 理學博士 | 和田孝庸 |
| 研究員 | 理學博士 | 和田孝庸 |
| 研究員 | 理學博士 | 木中忠一 |
| 研究員 | 理學博士 | 原田多市 |
| 研究員 | 理學博士 | 堀木梅太郎 |
| 研究員 | 農學博士 | 木梅太郎 |
| 研究員 | 農學博士 | 加藤茂正 |
| 研究員 | 農學博士 | 木中庸一 |
| 研究員 | 農學博士 | 飯鈴次策 |
| 研究員 | 農學博士 | 高吉鈴 |
| 研究員 | 農學博士 | 木村道信 |
| 研究員 | 農學博士 | 木橋俊雄 |
| 研究員 | 農學博士 | 木下瀬郎 |
| 研究員 | 農學博士 | 木下義一郎 |
| 研究員 | 農學博士 | 木下元一郎 |
| 研究員 | 農學博士 | 木下元兄 |

XXVII 鈴木(梅)研究室

- 三〇 榮養に關する研究
 三一 新清酒の製造

- 三二 米を原料とするアルコールの製造

| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 技師 | 研究員 | 研究員 | 研究員 |
| 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 |
| 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 |
| 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 |
| 研究員 | 研究員 | 研究員 | 研究員 |

研究生 理學士 東恒人
 研究生 農學士 庄司謙次郎
 研究生 農學士 山下瀬林
 研究生 農學士 木下義一郎
 研究生 農學士 木下元一郎
 研究生 農學士 木下元兄

研究生 理學士 丸山捨吉
 研究生 農學士 佐山貞一
 研究生 農學士 本橋佳一
 研究生 農學士 木下元兄

研究員 農學士 濱野貞行
 研究員 農學士 舟橋三郎
 研究員 農學士 岩田元兄

研究員 農學士 木下元兄
 研究員 農學士 木下元兄

研究項目

- 三一 酢酵生産物に就て
 三二 酿造物の香氣研究
 三三 炭化水素の接觸酸化に關する研究
 三四 米糠及醬油の油中の成分並に其利用法
 三五 菜種油の利用法
 三六 脂肪及びリボイドに關する研究
 三七 ビオステリンの研究
 三八 ヴィタミンAの化學的性質に關する研究
 三九 ヴィタミンB₁の合成研究(大陸科學院委託研究)
 四〇 ビリミヂン類の合成
 四一 ヴィタミンCの合成
 四二 ヴィタミンD並にステリン類に關する研究
 四三 ホルモン類の合成

七一

理化學研究所案内

七二

| | | | | |
|----|-----------------------|-----|------|--------|
| 三六 | 魚類心臓ホルモンに就て | 研究生 | 農學士 | 田中捷夫 |
| 三七 | 造血成分及催乳素に就て | 研究員 | 醫學博士 | 中上文和郎 |
| 三八 | 魚類肝臓の動物試験 | 研究員 | 農學博士 | 鶴大喜美代 |
| 三九 | 肝臓成分の研究 | 研究員 | 農學博士 | 道丹下ウメ |
| 四〇 | 病原菌による植物被害組織の化學的研究 | 研究員 | 農學博士 | 中原英和一郎 |
| 四一 | 動物癌種に關する研究 | 研究員 | 醫學博士 | 清郎 |
| 四二 | 綠茶の成分に就て | 技師 | 農學士 | 大嶽六郎 |
| 四三 | 綠茶香氣の成分 | 嘱託 | 農學博士 | 武居三吉 |
| 四四 | 蛋白分解物の栄養試験 | 研究員 | 農學博士 | 染川貞治郎 |
| 四五 | アミノ酸の研究 | 研究員 | 醫學博士 | 辻村みちよ |
| 四五 | 調味成分に關する研究 | 研究員 | 農學博士 | 麻生喜美代 |
| 四六 | 米胚芽の成分に就て | 研究員 | 農學博士 | 田中捷夫 |
| 四七 | 小麥胚芽の成分研究 | 研究員 | 農學博士 | 中上文和郎 |
| 三九 | 糖類の栄養試験 | 研究員 | 醫學博士 | 鶴大喜美代 |
| 四〇 | 滿洲產食鹽原料の研究(大陸科學院委託研究) | 研究員 | 農學博士 | 道丹下ウメ |
| 四一 | ニコチンの製造實驗(大陸科學院委託研究) | 研究員 | 醫學博士 | 中原英和一郎 |
| 四二 | 果精に關する研究 | 研究員 | 農學博士 | 清郎 |
| 四三 | 塗料の研究 | 研究員 | 農學博士 | 辻村みちよ |
| 四四 | アスファルトに關する研究 | 研究員 | 醫學士 | 前田司郎 |
| 四五 | デリス根の利用法 | 研究員 | 農學士 | 小川洋 |
| 四六 | 天然絹絲の再製に就て | 研究員 | 農學士 | 德山總太郎 |
| 四七 | 樟腦に關する研究 | 研究員 | 理學士 | 金良環 |
| 四八 | 臺灣產植物の化學成分 | 研究員 | 農學士 | 市場彰芳 |
| 四九 | 有機物の微量分析法 | 研究員 | 農學博士 | 田中捷夫 |

| | | | |
|-----|--------|------|-------|
| 雇用 | 研究生 | 醫學士 | 松岡登 |
| 研究員 | 研究員 | 醫學博士 | 川上行藏 |
| 研究員 | 研究員 | 農學博士 | 丸山捨吉 |
| 研究員 | 研究員 | 農學博士 | 新井勝五郎 |
| 研究員 | 研究員 | 農學博士 | 邊俊雄 |
| 研究員 | 研究員 | 農學博士 | 和田俊之 |
| 研究員 | 研究員 | 農學博士 | 前渡昭雄 |
| 研究員 | 研究員 | 農學博士 | 伊島武佐 |
| 研究員 | 研究員 | 農學博士 | 木佐佳一 |
| 研究員 | 研究員 | 農學博士 | 内木常鶴 |
| 研究員 | 研究員 | 農學博士 | 安造郎一 |
| 雇用 | 後松藤本佐美 | 農學博士 | 山本亮 |

| 豫 | | 事俸給及諸業費 | 雜品及消耗品費 | 電氣料費 | 瓦燃會印通特會留圖器雜 | 斯 | 電 | 水刷運議許學機製建築費 | 搬道費 | 費費費費費費費費費費 |
|------------|--|------------|-----------|-----------|-------------|-----------|----------|-------------|----------|------------|
| 合計 | | 八四三、九二八·〇〇 | 二〇、九六五·〇〇 | 一〇、九六三·〇〇 | 三九、四五二·〇〇 | 四一、七二二·〇〇 | 一、八五〇·〇〇 | 五、四六〇·〇〇 | 七、四七〇·〇〇 | 四九七、三〇〇 |
| 八四三、九二八·〇〇 | | △ △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ |
| 三、三二八·〇〇 | | 九、九六五·〇〇 | 九、九六七·〇〇 | 九、九六九·〇〇 | 九、九六八·〇〇 | 九、九六九·〇〇 | 九、九六九·〇〇 | 九、九六九·〇〇 | 九、九六九·〇〇 | 九、九六九·〇〇 |

(員ニ對スル分) 研究又ハ其ノ介助ヲナス職

研究報告書刊行費

電力、電燈、電話
蒸氣及燒房用石炭費

研究員會及報告會等
内外國特許料及出願費

八 第十九回(昭和十年度) 決算報告

貸借對照表 (昭和拾壹年三月三十一日)

| ○資產 | |
|---------|--------------|
| 一、現金 | |
| 一、銀行預金 | 九三、六〇三·五一 |
| 一、郵局預金 | 一六四、三〇〇·〇〇 |
| 一、未濟資金 | 一六四、三〇〇·〇〇 |
| 一、便振替貯金 | 一、三七九·九六 |
| 一、面額價金 | 一、五一七、五五五·〇〇 |
| 一、證券金 | 一〇、〇〇〇·〇〇 |
| 一、機械備物 | 二、一八七、〇一七·八六 |
| 一、機械備所 | 三、九七四、四〇九·一八 |
| 一、備備 | 二、三一六、五六五·〇九 |
| 一、備備 | 一九〇、一七二·三八 |
| 一、備備 | 四八五、二四八·〇二 |
| 一、備備 | 三八二、四九八·五八 |
| ○負債 | |
| 一、預資 | |
| 一、預資 | 二八三、一六一·九五 |
| 一、預資 | 二五二、五八二·〇八 |
| 一、預資 | 四五、五五一·一二 |
| 一、預資 | 六四、一八一·〇八 |
| 一、未收收入 | 一四七、五一一·〇〇 |
| 一、未收收入 | 一七〇、〇〇七·五九 |
| 一、未收收入 | 三八七、六五〇·一五 |
| 一、未收收入 | 三四、〇〇〇·〇〇 |
| 一、受取手形 | 九、三二八、七七四·六六 |
| 一、受取手形 | 六、三六八、四〇七·七九 |
| 一、受取手形 | 一六、五〇〇·〇〇 |
| 一、受取手形 | 二、三五二、〇三一·五〇 |
| 一、預資 | |
| 一、預資 | 一九〇、一七二·三八 |
| 一、預資 | 四八五、二四八·〇二 |
| 一、預資 | 三八二、四九八·五八 |
| 一、預資 | 一九〇、一七二·三八 |
| 一、預資 | 四八五、二四八·〇二 |
| 一、預資 | 三八二、四九八·五八 |
| 一、預資 | 一九〇、一七二·三八 |
| 一、預資 | 四八五、二四八·〇二 |
| 一、預資 | 三八二、四九八·五八 |

| | |
|---------|------------|
| 一、別口引當金 | 一、七四〇・〇〇 |
| 一、假受金 | 二七五、三六三・一二 |
| 一、諸準備金 | 六三、〇六二・二五 |
| 一、支拂手形 | 一五〇、〇〇〇・〇〇 |
| 一、未拂合計 | 一、六六九・九一 |

事業勘定書 (自昭和拾壹年四月廿一日)

| ○收入 | ○支出 |
|--------------|------------|
| 一、利息及配當金 | 一、事務費 |
| 一、補助金 | 一、事務費 |
| 一、貸地貸家料金 | 一、事務費 |
| 一、研究費收入 | 一、研究費 |
| 一、特許發明實施許諾報酬 | 一、研究費 |
| 一、雜收 | 一、研究費 |
| 計 | 一、研究費 |
| 一、作業收益繰入 | 一、研究費 |
| 小計 | 一、研究費 |
| 一、作業收益繰入 | 一、研究費 |
| 計 | 一、研究費 |
| 六六七、〇二七・三四 | 八三五、〇〇〇・四六 |
| 二七〇、三六八・五八 | 五一三、〇五一・八〇 |
| 九三七、三九五・九二 | 三二一、九四八・六六 |
| 九三七、三九五・九二 | 五、九五七・二一 |
| 九一五、一六四・七四 | 九一五、一六四・七四 |
| 一二二、二三一・一八 | 一二二、二三一・一八 |
| 九三七、三九五・九二 | 九三七、三九五・九二 |

参考の爲め左に創立以來の事業費の收支決算額を略記する。

| 年 度 | 收 入 | 支 出 | 年 度 | 收 入 | 支 出 |
|--------|-----------|-----------|--------|------------|------------|
| 大正六年 | 五三、三八・四 | 三、七五・六 | 昭和二年 | 七四、二〇七・〇七 | 三五、八四〇・一〇 |
| 七年 | 三三、二四・四 | 三三、三五・〇 | 三年 | 三八、三六六・九七 | 八三五、〇〇〇・四六 |
| 八年 | 二三、六〇・九 | 二三、九九・三 | 四年 | 五一三、〇五一・八〇 | 五一三、〇五一・八〇 |
| 九年 | 二五、八六・九 | 二五、九〇・五 | 五年 | 三二一、九四八・六六 | 三二一、九四八・六六 |
| 十年 | 三五、九〇・五 | 三五、九〇・五 | 六年 | 五、九五七・二一 | 五、九五七・二一 |
| 十一年 | 二二、一三・五 | 二二、一三・五 | 七年 | 九一五、一六四・七四 | 九一五、一六四・七四 |
| 十二年 | 一七、八三・七 | 一七、八三・七 | 八年 | 一二二、二三一・一八 | 一二二、二三一・一八 |
| 十三年 | 一六、九三・三 | 一六、九三・三 | 九年 | 九三七、三九五・九二 | 九三七、三九五・九二 |
| 十四年 | 一、四五、空五・九 | 一、四五、空五・九 | 十年 | 九三七、三九五・九二 | 九三七、三九五・九二 |
| 十五年 | 九〇、五〇・七 | 九〇、五〇・七 | 十一年 | 九五、一四・九 | 九五、一四・九 |

九 特 権

當所の所有してゐる内外國の特許権は別冊に記載せる如く昭和十一年三月三十一日迄に内國四七一件、外國一二件、實用新案特許六九件、登錄商標六六件であつて、其内已に實施せられて居るのも可成りあるが、多くは未だ實施されずにある。適當の條件では等の特許が社會に大に利用せられんことを望むものである。

理化學研究所案內

八〇

| | | | | | | |
|------|--------|-------|------|-------|-------|----------|
| 總 | 顧 | 理 | 同 | 理 | 問 | 裁 |
| 工學博士 | 櫻井鍊二 | 原邦造 | 理學博士 | 本多光太郎 | 大橋新太郎 | 伏見宮博恭王殿下 |
| 東大總長 | 子爵工學博士 | 大河内正敏 | 理學博士 | 片山正吉 | 内正夫 | |
| 醫學博士 | 南工次官 | 藤野信次 | 理學博士 | 岡與又郎 | 久實郎 | |
| 理學博士 | 牧長 | 又郎 | 理學博士 | 木田長 | 半太郎 | |
| 工學博士 | 青木菊雄 | 大郎 | 工學博士 | 環 | 大郎 | |

| | | | | |
|---|------|------|------|------|
| 理 | 事 | 鹽 | 邊 | 三 |
| 同 | 評議員 | 農學博士 | 森村 | 原 |
| 同 | 男 | 男 | 爵 | 久 |
| 同 | 爵 | 爵 | 岩崎 | 原房之助 |
| 監 | 男 | 爵 | 木梅太郎 | 久助 |
| 同 | 農學博士 | 鈴木 | 太郎 | 久助 |
| 監 | 農學博士 | 木 | 太郎 | 久助 |
| 同 | 農學博士 | 梅 | 太郎 | 久助 |
| 監 | 農學博士 | 太 | 太郎 | 久助 |
| 同 | 農學博士 | 郎 | 太郎 | 久助 |
| 監 | 農學博士 | 策 | 又 | 策 |
| 同 | 農學博士 | 長治 | 長治 | 長治 |
| 監 | 農學博士 | 造 | 邦 | 造 |
| 同 | 農學博士 | 郎 | 口儀兵衛 | 口儀兵衛 |
| 監 | 農學博士 | 彦 | 口儀兵衛 | 口儀兵衛 |
| 同 | 農學博士 | 太 | 富太郎 | 富太郎 |
| 監 | 農學博士 | 太 | 原 | 原 |
| 同 | 農學博士 | 乙 | 市來 | 市來 |
| 監 | 農學博士 | 高 | 岩崎 | 岩崎 |
| 同 | 農學博士 | 公 | 小彌太郎 | 小彌太郎 |
| 監 | 農學博士 | 助 | 虎之助 | 虎之助 |
| 同 | 農學博士 | 太 | 太郎 | 太郎 |
| 監 | 農學博士 | 彦 | 彦太郎 | 彦太郎 |
| 同 | 農學博士 | 太 | 太郎 | 太郎 |
| 監 | 農學博士 | 郎 | 邦造 | 邦造 |
| 同 | 農學博士 | 造 | 口儀兵衛 | 口儀兵衛 |
| 監 | 農學博士 | 郎 | 口儀兵衛 | 口儀兵衛 |
| 同 | 農學博士 | 策 | 又策 | 又策 |
| 監 | 農學博士 | 長治 | 長治 | 長治 |

| | | |
|--------------|--------------|------|
| 評議員 | 理學博士 | 片山正夫 |
| 頭取 | 橫濱正金銀行 | 兒玉謙次 |
| 商工次官 | 吉野信次 | |
| 田中平八郎 | 田中榮八郎 | |
| 高峰保全株式會社 | 高峰保全株式會社 | |
| 東大工學部長 | 東大工學部長 | |
| 工學博士 | 工學博士 | |
| 田中芳雄 | 田中芳雄 | |
| 大日本人造肥料株式會社 | 大日本人造肥料株式會社 | |
| 第一銀行頭取明石照男 | 第一銀行頭取明石照男 | |
| 根津嘉一郎 | 根津嘉一郎 | |
| 内藤久寛 | 内藤久寛 | |
| 中村房次郎 | 中村房次郎 | |
| 長岡半太郎 | 長岡半太郎 | |
| 東大總長醫學博士長與又郎 | 東大總長醫學博士長與又郎 | |
| 理學博士長岡半太郎 | 理學博士長岡半太郎 | |

附錄

理化學研究所案內

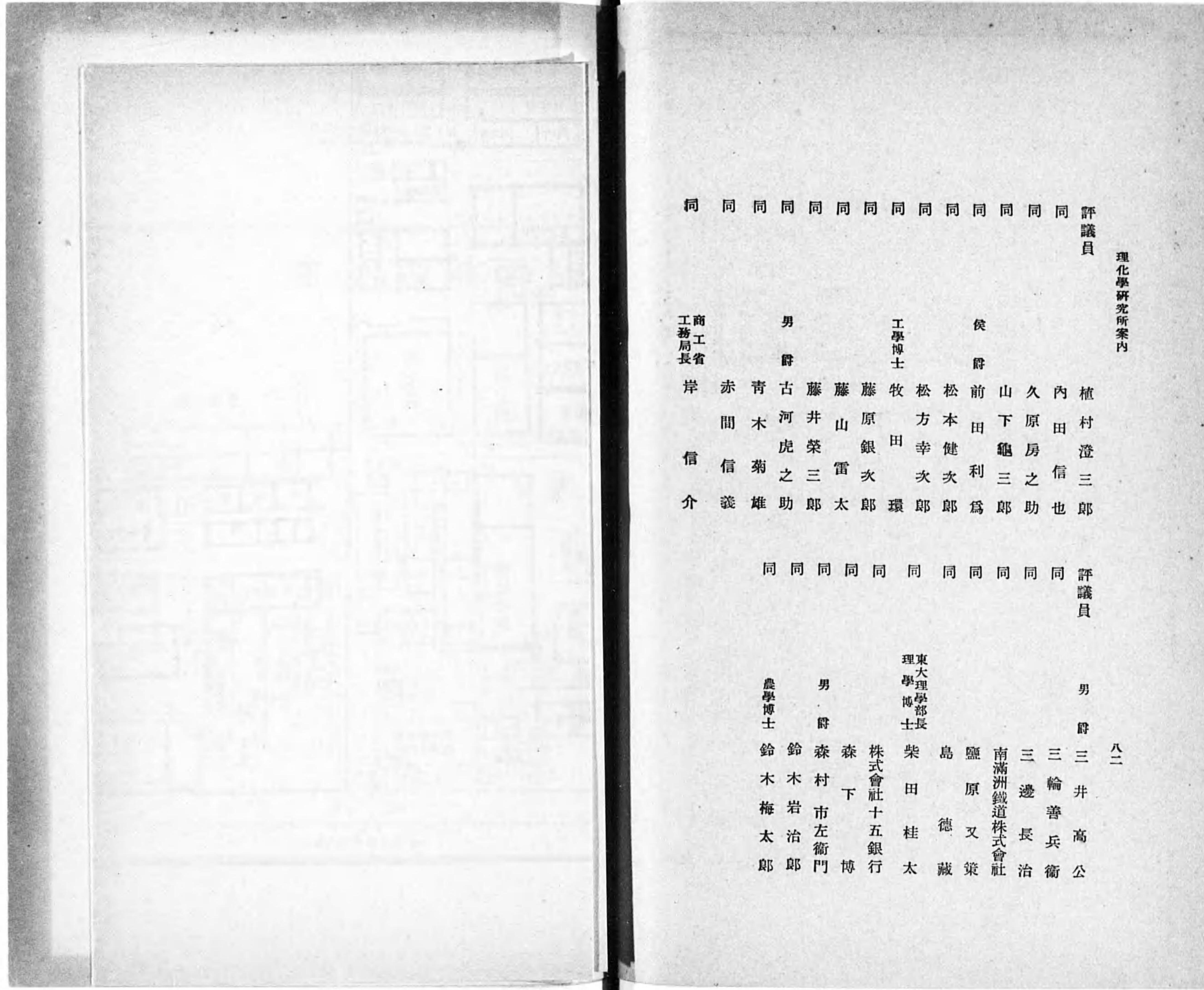
評議員

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 評議員
侯爵 植村澄三郎
工學博士 久山田信也
牧松前田也
藤藤原房也
赤青河虎榮雷之助也
古井山銀次郎也
間木河井幸健也
青木河井健利也
木河井幸次也
信菊信雷次也
信信利也
介義雄太郎也
介義雄太郎也

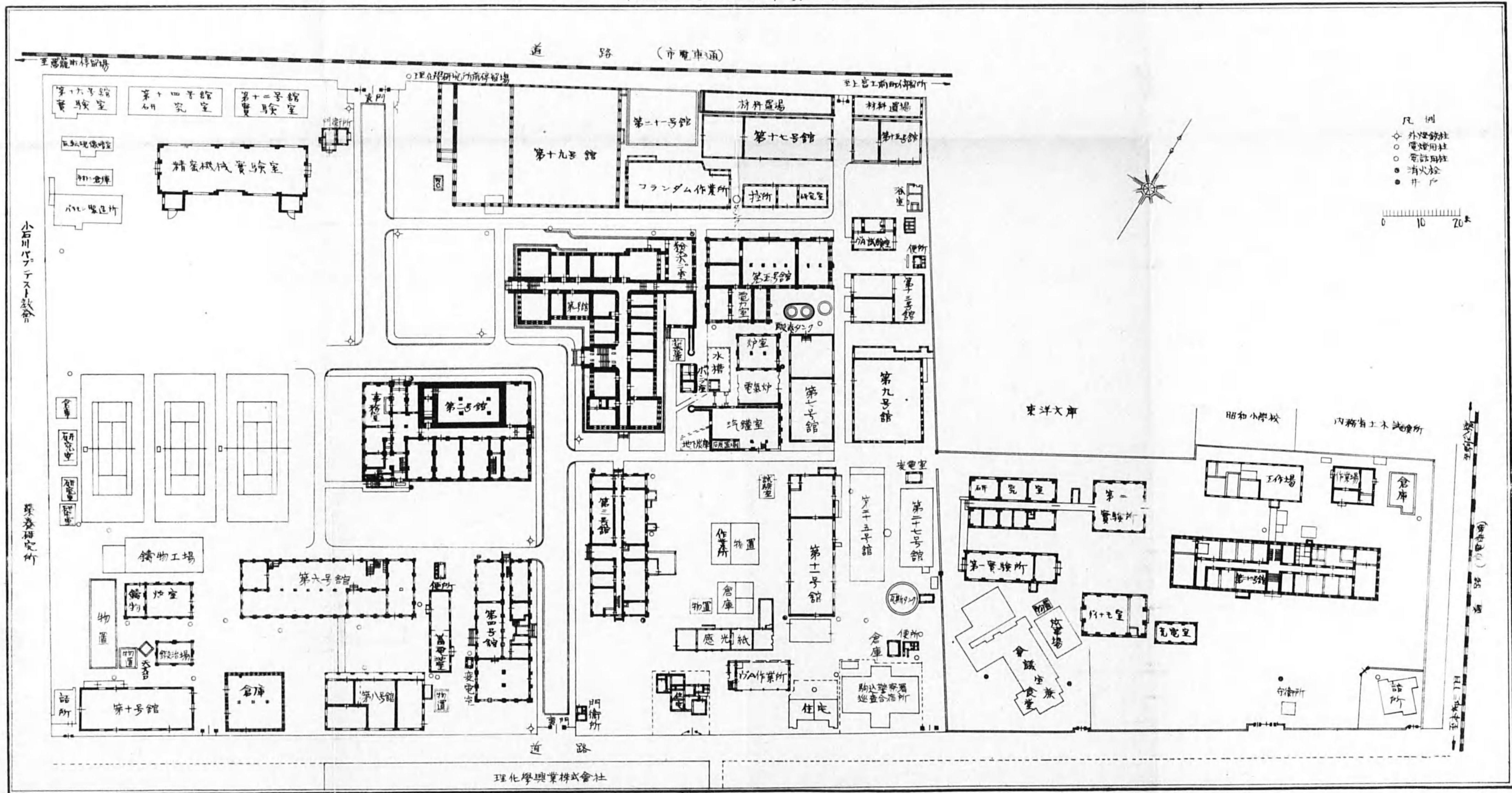
八二

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 評議員
男爵 三井高公
東大學學部長 三輪善兵
柴田德治
島鹽原又藏
三邊長治
南滿洲鐵道株式會社
株式會社十五銀行
市左衛門 博
森桂太郎
鈴木太郎
鈴木治郎
農學博士 鳩藏策

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 評議員



財團法人
理化學研究所建物配置圖
縮尺九百八十分之一



昭和十一年七月五日印刷
昭和十一年七月十日發行

【非賣品】

法財人團
理化學研究所

(電話、大塚(86)

二二二
二二一
二二三
二二二
六五四)

代表者 大河内正敏

東京市本郷區駒込上富士前町三十二番地

印刷者 野島新之丞
東京市小石川區音羽町八丁目十一番地

印刷所 東京市小石川區音羽町八丁目十一番地

印刷所 東京市小石川區音羽町八丁目十一番地

終